

# 令和元年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

## 1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

第一回理事会 平成 31 年 4 月 16 日（火）

理事 7 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

第一号議案 施設長交代の件について

第二回理事会 令和元年 6 月 11 日（火）

理事 6 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

第一号議案 平成 30 年度事業報告（案）審議の件について

第二号議案 平成 30 年度決算報告（案）審議の件について

第三号議案 監事監査報告の件について

第四号議案 社会福祉充実残高に関する審議について

第五号議案 基本財産処分に伴う定款変更認可申請（案）審議について

第六号議案 社会福祉法人ゆうかり学園役職員旅費支給規程改正（案）審議の件について

第七号議案 2019 年度第一次補正予算書（案）審議の件について

第八号議案 ゆうかり医療療育センターのサーバー等の入れ替えに伴うリース契約の件について

第九号議案 役員任期満了に伴い、評議員会へ提出する理事、監事候補者選任の件について

第十号議案 ゆうかり医療療育センターの副所長等選任について

第十一号議案 定時評議員会招集に関する審議の件について

第十二号議案 LED 設備工事に係る請負業者の決定並びに契約締結について

第十三号議案 評議員選任・解任委員選定の件について

第一回評議員会 令和元年6月26日(水)

評議員9名中7名出席 陪席者：理事6名、監事2名

- 第一号議案 平成30年度事業報告(案) 審議の件について
- 第二号議案 平成30年度決算報告(案) 審議の件について
- 第三号議案 監事監査報告の件について
- 第四号議案 社会福祉充実残高に関する審議について
- 第五号議案 2019年度第一次補正予算書(案) 審議の件について
- 第六号議案 基本財産処分に伴う定款変更認可申請(案) 審議について
- 第七号議案 役員任期満了に伴う理事、監事の選任について
- 第八号議案 その他の件について

第三回理事会 令和元年6月26日(水)

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 役員改選に伴う社会福祉法人ゆうかり学園理事長選定の件について

第四回理事会 令和元年9月30日(月)

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 社会福祉法人ゆうかり学園火災保険(建物、設備什器等)の見直し及び契約について
- 第二号議案 準職員等の賃金改定について
- 第一号議案 ゆうかり医療療育センター固定資産物品購入の件  
・X線骨密度測定装置

第五回理事会 令和元年11月20日(水)

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 2019年度社会福祉法人ゆうかり学園第二次補正予算書(案) 審議の件
- 第二号議案 評議員辞任の申し出について
- 第三号議案 千歳療護園、第二千歳療護園に於ける利用者用ベッドの入れ替えについて
- 第四号議案 就業規則改正(案)、給与規程改正(案)、昇格・昇給に関する規則改正(案) 審議の件
- 第五号議案 人事院勧告の件について

- 第六号議案 評議員会招集に関する審議の件  
第七号議案 国土交通省補助金による福祉機器等整備に伴う業者選定について

第二回評議員会 令和元年12月9日（月）

評議員8名中8名出席 陪席者：理事6名、監事2名

- 第一号議案 2019年度社会福祉法人ゆうかり学園第二次補正予算書（案）審議の件

第六回理事会 令和2年3月13日（金）

理事6名中6名出席 監事2名中2名出席

- 第一号議案 2019年度第三次補正予算書（案）審議の件について  
第二号議案 令和2年度事業計画（案）審議の件について  
第三号議案 令和2年度当初予算（案）審議の件について  
第四号議案 施設長等の契約更新について  
第五号議案 令和2年度給食納入業者の選定について  
第六号議案 第二千歳療護園車輛納入契約について  
第七号議案 丸紅基金助成金申請（第二千歳療護園）について  
第八号議案 評議員会招集に関する審議の件  
第九号議案 その他の件について

第三回評議員会 令和2年3月24日（火）

（新型コロナウイルス感染予防対策のため定款15条の4の規定に基づき書面審議とした）

- 第一号議案 2019年度第三次補正予算書（案）審議の件  
第二号議案 令和2年度事業計画（案）審議の件  
第三号議案 令和2年度当初予算書（案）審議の件  
上記全議案全員承認

## 2、令和元年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの利用状況は、医療型障害児入所施設（定員150名）では延8,131名、一日平均22.2名、療養介護事業所（定員150名）では延39,231名、一日平均107.2名、私的入院では延4名であった。入所率は150定員に対して86.3%であった。短期入所では21名の利用があり、延利用日数は383日であった。一方、日中一時支援も12名の利用があり、延76回の利用が

あった。

コアラ園では、児童発達支援事業（定員 20 名）に対し延 3,027 名、一日平均 12.77 名が利用された。また、放課後等デイサービス事業（定員 10 名）では延 279 名、一日平均 1.18 名であった。保育所等訪問では延 18 名の利用があった。

耳納学園においては、施設入所支援（定員 34 名）に対し、延 9,871 名の利用があり、一日平均 26.9 名、充足率は 79.3%、就労継続支援 B 型（定員 40 名）では、年間作業参加実績延 6,458 名、定員から見た充足率は、67.8%、一日平均作業参加実績利用者数は 27.1 名であった。

千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 50 名）が延 11,688 名で 89.2%の充足率、施設入所支援（定員 40 名）は延 14,402 名で 98.8%の充足率であった。内訳は 4 名の利用者が延べ 41 日間の入院の他、外泊日数は延べ 132 日間となっており入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 14,402 名で 98.8%の充足率であった。短期入所利用者は延 38 名、日中一時の利用者はなかった。

第二千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 40 名）に対して延 10,352 名で 98.7%、施設入所支援（定員 40 名）は延 14,464 名で 98.7%の充足率である。内訳は 5 名の利用者が延べ 135 日間の入院の他、外泊日数は延べ 41 日間となっている。入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 14,464 名で 98.7%の充足率であった。短期入所の利用者は延 41 名、日中一時の利用はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は 11 頁以降に掲載している。

### 3、助成事業関連

#### ① 国土交通省自動車事故対策補助金による事業（千歳療護園）

標記について、前年度に引き続き千歳療護園に対し 10,926,000 円の補助金の交付を受けて、入所施設支援費 4,646,000 円（内自己資金 646,000 円）及び人材雇用費として 6,926,400 円を支出した。入所施設支援費については福祉機器（天井走行型リフト、床走行リフト）を整備した。

#### ② 歳末助け合い「まごころ募金」備品等購入助成（耳納学園）

令和 2 年 2 月 5 日、西日本新聞民生事業団より物品購入のための標記助成事業の打診があり、利用者の意向など踏まえてドラム式洗濯乾燥機 1 台を購入することとし、民生事業団と協議を行った。3 月 2 日設置工事完了、総事業費 154,000 円、うち助成金 150,000 円であった。

#### 4、賛助会員の状況

今年度の加入状況は個人会員 43 名及び 5 団体であった。盆踊り花火大会、運動会への案内及び広報紙（年 3 回発行）を送付した。

また、温泉利用者数は延 1,825 名、（前年度 2,110 名）一日平均 20.73 名であった。

#### 5、利用者様のサービス向上に関する事項

苦情解決委員会をはじめとする各委員会活動を通じて、利用者様のサービスの向上、並びに職員の資質向上に努めた。

#### 6、定例事業

##### (1) 盆踊り・花火大会の開催

大会期日を 2019 年 7 月 25 日(木) ※雨天順延 とし、4 月に各施設、各部署へ実行委員の選出をする。5 月 27 日に、行政機関や各協力機関への挨拶や協力依頼を正副実行委員長で出向く。実行委員会は、第 1 回目を 5 月 15 日とし、毎週水曜日に開催した。5 月には食品売店、6 月には打ち上げ花火関連の許可申請等を各機関へ提出する。7 月 18 日より作業開始し、設営に取り掛かる。

7 月 19 日には踊り・売店・花火・駐車場、各担当者を含めて、実行委員会最終打ち合わせを行い、7 月 25 日(木)盛大に開催した。猛暑の中での盆踊り花火大会であったが、利用者様の体調を考慮し、大会の時間を短縮するなどの変更を行い開催した。

##### (2) 運動会の開催

開催期日を 2019 年 10 月 19 日(日)とし、2 月に東部運動公園の調整会議に参加し、会場の確保を行う。8 月に各施設、各部署へ実行委員の選出を依頼する。実行委員会は、第 1 回目を 8 月 23 日とし、毎週水曜日に開催した。準備期間中、耳納小学校、田主丸支援学校よりテントを借用した。

運動会前に感染症にて、おひさま寮の不参加が決定した。今年も猛暑による利用者様への負担軽減を考慮し、午前中の開催を予定していたが、前日からの雨がのため、開催を中止をした。なお、各施設、寮での保護者様へのご案内及び雨天時の対応がなされており、室内レクリエーションを中心に実施した。

##### (3) 韓国瑞林福祉院との職員交流研修事業

恒例の職員交流事業は諸般の事情により本年度は開催を中止とした。

(4) 耳納学園展示即売会

第13回目となる恒例の展示即売会を1月11日(土)から13日(祝)までの三日間『ゆめタウン久留米 ウェストコート』にて開催した。

7、職員研修事業(園内)

(1) 外部講師による人権研修

講師：倉富 史枝 氏

9/4 『ハラスメントのない職場作り』

(2) 園内研修会の実施

- ・QC発表会 6/12、19
- ・メンタルヘルス研修会 8/21
- ・感染症研修会 11/27
- ・虐待防止研修会 12/11
- ・報告会(苦情解決、安全管理、感染症対) 2/26

(3) 新任職員研修

いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

8、委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動を活発に行ってきた。その他各委員会からの報告は別添のとおりであった。

9、その他の事業

① 新型コロナウイルス感染症対策

厚労省通達及び国の基本方針の発表を受けて別紙の基本指針を作成(2/26)し、利用者・ご家族のご理解と協力を得ながら施設内への感染防止のための措置を講じた。

また、典心の湯についても基本指針に基づき2/29より当分の間閉鎖することとした。

② 企業内臨時学童保育の実施

3月2日から全国一斉に小、中、高校、特別支援学校の休校要請が発せら

れる中、一部の職員から学童保育の要望があった。実施にあたり対応職員の確保が懸念される中ではあったが、理事長はじめ所長レベルで交代をしながら手探りの状態であったが、初の試みとしてスタートさせた。

期間は3月9日から24日までの土日祝日を除く11日間で、小学生4名と中学生1名の計5名で、延べ37名の利用があった。利用した児童は皆が初対面ではあったが、すぐに仲良く触れ合うことが出来「楽しかった」と満足した様子であった。今後の法人の取り組みに対するヒントが与えられたのかもしれない。

## 2019 年度新任職員研修

### 研修のねらい

- ・1 回目は入職にあたっての最低限必要と思われる内容にとどめ、実務をより早く経験する。
- ・2 回目を 3 ヶ月～6 ヶ月後あたりに開催し、理事長講義、新任職員に事前にアンケートをとり、新任職員になって自分の抱えている悩みやこれからの期待、日常業務の中で疑問に思っていること等をグループ討議で話し合いしてもらう。
- ・3 回目は、1 年間を通じての現場実習の最終日とする。
  - ①1 年間を通じ、法人内の他部署の仕事を経験し、自分の仕事に対する姿勢を振り返る機会とする。
  - ②新任職員が顔を合わせて話し合い、同じ様な悩みや不安を持っていながらも、みんな頑張っている状況を知り、自分だけではないことを共有すると共に、今後の自分の仕事に対する姿勢や課題を再確認し、心をリセットする。

2019 年 4 月 1 日(月)

9:00～18:00

	研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考
	集合後 ⇒ オリエンテーション ⇒ 移 動 ⇒ 研修室		9:00	～ 9:20	カンファレンス
1	辞 令 交 付		9:20	～ 9:40	地域支援棟 研修室
	移 動 ⇒ カンファレンス		9:40	9:45	
2	自己紹介	『今の私・6 か月後の私』	9:45	～ 10:00	
3	局長講義	『学園の組織と沿革』	10:00	～ 12:00	事務局長
	昼休み (車椅子操作がある為、動きやすい服装で参加)		12:00	～ 13:00	
5	就業規則		13:00	～ 13:30	海田部長
6	福利厚生・退職金共済		13:30	～ 14:00	
	休 憩		14:00	～ 14:10	
7	車椅子実技		14:10	～ 14:50	理学療法室 1 藤川課長
	休 憩		14:50	～ 15:00	
4	学園紹介 利用者さんとの接し方	ビデオ視聴	15:00	15:40	
8	施設見学	ゆうかり医療療育センター・耳納学園 千歳療護園・第二千歳療護園	15:40	～ 17:40	上原所長
	休 憩		17:40	～ 17:50	
9	終 礼		17:50	～ 18:00	

研修担当 法人事務局



# 2019年度新任職員研修

## 第2回

令和元年 12月 12日(木)

9:00~18:00

会場：カンファレンスルーム

研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考	
1	オリエンテーション	9:00	~ 9:05		
2	理事長講義	9:05	~ 10:50	※	
	休憩	10:50	~ 11:00		
3	防災・防犯対策委員会について	11:00	~ 12:00	稲田課長 三重野課長	
	昼休み	12:00	~ 13:00		
4	大滝所長講義	13:00	~ 14:00		
	休憩	14:00	~ 14:10		
5	苦情解決委員会について	14:10	~ 14:40	佐藤課長	
	休憩	14:40	~ 14:50		
6	今までの自分を振り返って	個人評価への記録	14:50	~ 15:00	
7	グループ討議・発表	『今まで仕事に携わってきて』			
		① 説明 (10分)	15:00	~ 15:10	
		② 自己紹介・役割分担決め(20分)	15:10	~ 15:30	
		③ テーマの決定及び討議 (80分)	15:30	~ 16:50	
	休憩		16:50	~ 17:00	
8	グループ討議発表	④グループ発表 等 (60分)	17:00	~ 18:00	

※ 必須

研修担当 法人事務局

# 施設事業報告

- ・ ゆうかり医療療育センター
- ・ コアラ園
- ・ 相談支援事業所 夢の紀
- ・ 耳納学園
- ・ 千歳療護園
- ・ 第二千歳療護園
- ・ 久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業
- ・ 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

# ゆうかり医療療育センター

## 医療部診療課 外来

### 《概況》

外来受診者の中で、入所前診察者は重症化の傾向にある。

療育前診察は昨年と同様であり自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、言語発達遅滞等の受診者が多く、初診では1人あたりの診療時間は長く必要とする。リハビリ実施計画書に基づく診察も行っていることから、診療予約日を早めに設定した。

千歳療護園・耳納学園入所者の診察もあり、スムーズに診察出来るよう情報収集を行い、医師との連携に心掛けた。

2019年度 受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新患	26	32	15	28	23	43	21	20	28	40	22	28	326
再来	1,091	1,006	1,094	1,156	914	1,176	1,104	1,270 ※	1,564 ※	1,041 ※	1,059	1,139	13,614

※インフルエンザ予防接種者を含む

- ・インフルエンザの流行時期は予防策として、外来者は受付で、マスク着用と必要に応じて体温測定を行い、症状のある時は、医師に報告し対応した。
- ・令和2年2月から新型コロナウイルス感染拡大予防の為、外来患者・付き添家族など学園内出入りする全て方の体温測定、マスク着用の徹底を行っている。
- ・発達障害児の新患予約状況は、11ヵ月待ちの状況にある。
- ・運動発達遅滞児の新患予約状況は2ヵ月待ちである。
- ・各種の申請書類診察が、年々増加の傾向であり、書類診察待ちの状況である。
- ・入所者の重症化に伴い、外来でガス滅菌器を使用しているが、その頻度は増加し、準備時間とコストは増しているが、感染防止に欠くことはできない。
- ・医療物品のコスト削減の為、在庫管理を行い商品見直しに努めている。

医療部診療課 エックス線

《概況》

レントゲン業務は変化しつつある。栄養チューブ確認や胃瘻造影、膀胱瘻のチューブ交換、EDチューブなども加わってきた。整形外科の撮影は、利用者様の緊張の度合いもあり、正確に2方向は撮れないものの、CR装置を駆使し、良い画像が得られている。抗けいれん剤などの多剤服用を長期に要していることから骨粗鬆症の危険性が大きい。そのために骨密度測定装置を使うこととなった。それにともなってCT撮影も多くなってきた。

2019年度 エックス線撮影件数

一般撮影

(名)

月 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	14	15	12	21	22	28	15	20	20	19	17	22	225
なかよし	17	10	10	15	8	9	10	8	6	5	6	15	119
ともだち	17	15	15	9	13	3	6	9	4	10	11	7	119
外 来	14	20	20	20	19	22	42	22	92	13	15	21	320
計	62	60	57	65	62	62	73	59	122	47	49	65	783

透視

(名)

月 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	8	7	3	5	12	5	10	7	8	6	7	8	86

CT

(名)

月 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
なかよし	4	2	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	11
ともだち	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0	5
外 来	0	1	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	6
計	6	3	2	1	1	3	0	3	2	3	2	1	27

## 骨密度

(名)

病棟・外来	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま		0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	12	0	22
なかよし		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ともだち		0	0	0	0	0	0	0	7	7	5	0	0	19
計		0	0	0	0	0	0	0	7	17	5	12	0	41

## 医療部診療課 検査

## 《概況》

本年度の利用者様（3寮・千歳・第2千歳・耳納）の年2回の健康診断、職員の夜勤者健診、35歳未満健診は予定通り行うことが出来た。利用者様の高齢化・重症化に伴い至急の検査が年々増加傾向。ノロウイルス胃腸炎の陽性者は、利用者様に4名認められた。下痢原性大腸菌の陽性者は、利用者様に2名認められた。インフルエンザA・B型ともに、利用者様への感染は確認されず、職員にA型の感染が確認された。アデノウイルスは、10月～11月にかけて、おひさま寮の利用者様8名に感染が確認され、寮内への感染拡大もみられた。

2019年	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	外注検査
	6カ月	誕生月	外部・入園時									
4	21	23	0	35	16	16	2	18	3	6	14	74
5	21	25	0	69	18	16	4	21	1	2	22	88
6	19	21	3	58	12	25	0	13	4	8	22	97
7	16	14	3	50	12	19	9	18	2	6	12	86
8	19	27	3	49	26	18	4	26	1	6	3	146
9	14	16	2	39	27	22	0	13	2	8	5	88
10	24	20	16	41	19	23	0	30	2	5	20	89
11	23	21	1	70	32	28	8	20	2	2	25	92
12	23	18	0	48	19	19	12	15	1	4	6	95
1	17	18	2	33	24	6	2	18	2	5	17	93
2	24	19	0	40	18	12	1	13	2	3	4	139
3	15	16	13	47	25	22	0	27	2	6	5	129
計	236	238	43	579	248	226	42	232	24	61	155	1,216

《研修》

7月に3回 CBC、CRP 検査機器の使用方法 対象者：看護師

医療部診療課 薬局

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。2019年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 2019年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

		外来						病棟					
		臨時		定期		注射		臨時		定期		注射	
月	日数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
4	20	40	76	0	0	0	0	1,027	1,359	84	208	36	36
5	19	51	108	0	0	2	2	1,066	1,235	84	207	149	149
6	20	35	65	0	0	1	1	1,009	1,218	82	215	93	93
7	22	50	72	0	0	11	11	1,043	1,266	84	223	97	97
8	18	42	84	0	0	6	6	949	1,178	84	223	41	41
9	19	33	72	0	0	2	2	959	1,214	83	219	29	29
10	21	49	90	0	0	2	2	1,068	1,367	81	222	23	23
11	20	42	76	0	0	8	9	1,212	1,365	85	232	134	134
12	21	62	110	0	0	5	5	1,115	1,330	85	231	99	99
1	19	39	56	0	0	2	2	1,131	1,394	85	231	64	64
2	18	51	83	0	0	3	3	1,067	1,231	85	231	96	96
3	21	46	87	0	0	3	3	1,203	1,413	88	243	118	118
計	238	540	979	0	0	45	46	12,849	15,570	1,010	2,685	979	979

★吸入処方、外用剤でカウント

② 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂

医療法では医薬品・医療機器の安全使用、管理体制の整備のため「医薬品の安全使用のための業務手順書」の作成が義務付けられている。その内容は施設に応じて実施可能なものとし、医療環境の変化に伴い随時見直しをすることが求められる。今回、病棟における医薬品の安全管理について追加・改訂を行った。

③ 医薬品の安全使用のための研修会の実施

医療法に基づき、従業員に対し医療安全、医薬品・薬物に関する事故防止対策、特に安全管理が必要な医薬品などについて研修を実施した。

④ 薬事審査会開催

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。また、医

薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

⑤ 病棟看護師の業務負担軽減

今まで看護師が定期薬をセットしていたが、これを薬剤師が行うことで、看護師の業務の負担軽減に貢献した。

⑥ 救急カートの点検

急変時に必要となる注射薬の期限をチェックし、期限の切れたものについては随時交換を行った。

⑦ 院内感染症対策委員会参加

⑧ 医療安全対策委員会参加

⑨ 給食委員会への参加

臨床検査値の異常が投薬中の薬剤に起因するかいなかを、検討するとともに情報提供を行った。

⑩ 出張 令和元年 11 月 14 日 福岡県病院薬剤師研修会 参加

福岡県保健医療介護部薬務課、福岡県病院薬剤師会主催

**医療部診療課 口腔衛生**

《概況》

歯科医師の指導に基づき継続的な口腔管理の実施。

ゆうかり医療療育センター（おひさま寮・なかよし寮・ともだち寮）

耳納学園 千歳療護園・第2千歳療護園 外来

受診者総数は下記の通りである。

2019 年度園内歯科受診者数

2019 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	92	81	123	89	80	85	73	85	99	83	83	94	1,067
D.H	239	175	218	216	185	246	194	165	225	166	195	200	2,424

Dr（歯科医師） D.H（歯科衛生士）

2019 年度外来受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	36	27	43	24	22	31	20	26	27	32	24	26	338

- ・コアラ園利用者様の口腔検診実施（6月）
- ・耳納学園利用者様の口腔検診実施（6月）
- ・おひさま寮職員対象にブラッシング指導（10月）
- ・全身麻酔下歯科治療の為、外来受診者7名を聖マリア小児歯科へ紹介した。
- ・千歳・第二千歳の利用者様においては、加齢と共に歯周病による喪失歯の増加もみられてきた。
- ・今後も利用者様の口腔内環境を整え、齲蝕予防、歯周病進行防止、感染症予防にも繋がる口腔ケアを継続実施していく。



## 看護部看護課

### 《概況》

敬意を込めた対応で、豊かに生きることへの支援をテーマに、医療安全、感染症対策の強化。重症児者看護、介護の専門性を高め、地域支援事業の充実に努める。専門性を高めるために、施設内研修充実を図る。研修内容、開催時間等の工夫を行いより豊かな研修が実施できた。

*委託入院	久留米大学病院	14件	聖マリア病院	5件
	田主丸中央病院	8件	姫野病院	1件
	国立病院機構大牟田病院	1件	古賀病院	21件
◆ 超重症児		5名	◆ 準超重症児	11名
◆ 気管切開者		13名	◆ 鼻腔カテーテル挿入者	11名
◆ 胃瘻チューブ挿入者		23名	◆ 腎瘻、膀胱瘻	2名

*インフルエンザ予防接種	13名
インフルエンザ A型罹患者	0名
B型罹患者	0名
*短期入所者（延）	340名
*日中一時支援利用者（延）	102名

### ＜実習生受入数＞

医学・看護学生	久留米大学医学部医学科	9名
	久留米大学医学部看護学科	9名
	昭和学園高等学校看護学科	54名
	八女筑後看護専門学校	36名
体験研修	新採用県職員	9名
ボランティア		12名

### ① 2019年度 在籍者数（月初日）

2019年4月～2020年3月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
療養	108	108	107	109	109	109	110	110	110	109	109	109
医療	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22
私的	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

② 2019年度入退園者状況

2019年4月1日～2020年3月31日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
措置入園												
退園					1							
契約入園		1	2			1						
退園		1							1			
私的入園												
退園	1											

③ 2019年度年齢別入所者数

2020年3月31日現在

年齢(歳)	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40以上	計
措置	0	4	5	4	0	0	0	13
契約	0	4	2	5	22	16	69	118
私的	0	0	0	0	0	0	1	1

【なかよし寮】

- 11月 重大アクシデント発生、スタッフ全員にアンケートを実施、分析・対策を行う。インシデントを活用し情報共有していく事が大切である。
- カンファレンスの時間を利用し研修を行う、不参加スタッフへのフォローが不十分であった。外部研修への参加率が低いため、研修の必要性を随時説明することが必要である。感染症対策として、休憩室に感染経路や対策を掲示し周知徹底をおこなった。個室対応や食堂閉鎖等迅速に対応できた。
- 短期入所利用者は、週末や学校長期休暇中、コンスタントに受け入れる。他寮とベットを共有し受け入れ態勢を整えた。

【おひさま寮】

- 医療安全、感染症対策の強化について  
今年度感染症委員会を中心とし、感染症発症時の対応や、対策を徹底する事で感染症拡大防止に努めていたが、10月中旬よりアデノウイルス感染症が拡大したため、医師と感染症対策の見直しを図り、終息することができた。
- インシデント、アクシデント報告、分析、情報共有し、特に重大アクシデントにおいては、カンファレンスの時間を利用し、より多くのスタッフが参加でき共通の研修会を行うことでリスクマネジメント力の向上や看護、介護の知識向上に努めることが出来た。

● 地域支援事業の充実

短期入所の受け入れに対し、ご家族、地域事業部との情報交換を行いご家族利用者が安心して利用できるように寮内の支援体制、関わり方の見直しを行ったが、感染症や入所者の重症化に伴い一部受け入れができない事があった。

【ともだち寮】

● ともだち寮 2019 年度事業報告

● 医療安全においては、インシデントレポートの提出については、常に呼びかけを行うことで提出率があがっているが、薬に関するインシデントは少なく、アクシデントが発生している。

アクシデントに関しては、迅速に対応し、委員を中心に対策できている。

● 感染症対策においては、感染症の流行はなかったが、MRSA や ESBL が検出されたため、マニュアルに従い感染対策を行った。

● 肺炎による委託入院や誤嚥性を疑う肺炎の発症があり、ST と検討しながら、食事介助マニュアルを作成、職員への指導、周知を行っている。

● 地域支援事業においては、豪雨災害支援として、短期入所利用の方を短期間契約入所として受け入れた。短期入所については、出来る限り受け入れ、家族のレスパイト支援とした。

病類別入所者数

2020年3月31日現在

病 名		病 名	
脳性麻痺	66	染色体異常	5
低酸素性虚血性脳症	2	脊髄破裂後遺症	2
副腎白質ジストロフィー	2	マーシャルスミス症候群	1
脳損傷後遺症	1	先天性眼球欠損症	1
頭蓋内出血後遺症	2	知的障害	2
化膿性髄膜炎後遺症	2	レット症候群	4
左瘻性麻痺	1	急性脳症後遺症	1
滑脳症	1	インフルエンザ脳炎後遺症	1
てんかん性脳症	1	硬膜下出血後遺症	1
クラインフェルター症候群	1	頭蓋咽頭腫摘出術後状態	1
髄膜炎後遺症	1	猫鳴き症候群	1
ダウン症候群	3	乳幼児揺さぶられ症候群	1
右中頭蓋窩クモ膜胞	1	心肺停止蘇生後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	脳腫瘍手術後状態	1

脳炎後遺症	2	頭蓋骨早期頭蓋癒合	1
無酸素性脳症	2	頭部外傷後後遺症	1
水頭症	4	超低出生体重児	1
精神発達障害	3	水頭無脳症	1
MCT 変異による甲状腺ホルモン輸送障害	2	先天性筋緊張性ジストロフィー症	4
難治性てんかん	1	筋強直性ジストロフィー症	1

計 131 名

看護部研修会参加状況

(名)

日時	研修内容	おひさま	なかよし	ともだち	その他	合計
4月	骨折について	12	4	6	34	56
5月	呼吸器について	10	10	10	6	36
6月	ポジショニング		9	9	23	41
7月	検査室の業務	7	4	4		15
8月	呼吸理学療法	8	4	9		21
9月	食事形態について	15	7	5	18	45
10月	口腔衛生	9				9
1月	経管栄養について	14			1	15

<出張関係>

◆ 第 121 回 摂食・嚥下指導（基礎・実習）講習会

4月17日～18日 介護福祉士 1名

◆ 平成 31 年度 社会福祉施設役職員研修新任職員研修

5月8・9・14・15・16・21・22・23・28・29日  
 看護師 6名  
 介護員 1名

◆ 2019 年度 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会

5月30日～31日 看護師 1名

◆ 平成 31 年度 感染症予防研修（前期）

6月13日 介護福祉士 1名

◆ 平成 31 年度 ストレスマネジメント研修（中堅職員コース）

6月20日 看護師 1名

◆ 2019 年度 九州沖縄地区重症心身障害施設経営研究会

7月4日～5日 看護師 2名

◆ 2019 年度 医療機器安全基礎講習会

	7月6日	看護師	2名
◆ 令和元年度	ストレスマネジメント研修（管理職員コース）		
	7月22日	看護師	1名
◆ 令和元年度	職場におけるメンタルヘルス対策セミナー		
	7月30日	看護師	1名
◆ 令和元年度	久留米市医療安全対策研修会		
	8月20日	看護師	1名
◆ 令和元年度	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程管理職員コース		
	8月27日～28日	看護師	1名
◆ 第64回	西日本肢体不自由児施設運営研究会		
	9月5日～6日	看護師	1名
◆ 令和元年度	児童福祉施設新任職員研修会		
	9月10日	看護師	6名
		介護員	1名
◆ 令和元年度	全国重症心身障害児者施設職員研修会（看護師コース）		
	9月11日～13日	看護師	1名
◆ 第38回	九州身体障害者施設研究大会		
	9月19日～20日	看護師	1名
◆ 令和元年度（第39回）	全民連中堅職員研修会		
	10月3日～4日	看護師	1名
◆ 令和元年度	感染症予防研修（後期）		
	10月8日	介護福祉士	1名
◆ 令和元年度	全国重症心身障害児や施設職員研修会（看護管理研究会コース）		
	10月30日～11月1日	看護師	1名
◆ 第41回	看護管理者講習会		
	11月5日～8日	看護師	1名
◆ 第40回	日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会総会		
	11月14日～15日	看護師	2名
◆ 令和元年度	福岡県強度行動障害支援者養成研修 基礎研修・実践研修		
	11月6日～7日 20日～21日	看護師	1名
◆ 令和元年度	福祉サービス苦情解決従事者研修会		
	1月16日	看護師	1名

### 《概況》

2019年度は、育成部3寮のテーマに『新時代へ・勇猛果敢に・チャレンジ』を掲げ、新しい時代に何か新しいことが提供できるようにと思うチャレンジ精神を持ち続け、サービスを提供するとした。行動指針として、輝く未来へ、こころある福祉の提供、こころ優しく、寄り添い、愛あることばの提供、規律、信頼、結束、3つの力の提供を目標として、それぞれの利用者様へ充実した毎日を過ごせるように心がけた。一人ひとりのニーズに対応し、満足して頂けるような支援を、なかよし寮、おひさま寮、ともだち寮、それぞれの利用者様へ、個別支援計画に基づき、個別、及び小人数での対応、支援の充実を図り、利用者様方が、楽しみ、希望、生きがいを持てるような行事（花祭り、端午の節句、七夕、クリスマス会、節分、ひな祭りなど）、各種のレクリエーション、グループ活動、少人数による希望外出を計画実施した。

5月には、3寮合同によるレクリエーション会を実施した。午前中は、それぞれの寮でのレクリエーション、午後からは、ブリヂストンK2バンド20名以上の方々の慰問により、演奏会を実施して頂いた。3寮利用者様の保護者の参加も頂き、毎年の恒例行事として今後も継続実施する予定。

法人全体行事、7月の盆踊り花火大会への参加、又10月の大運動会は、天候不良により屋内での開催になったが、各寮単位のレクリエーション会にもたくさんの保護者、兄弟の方々に参加して頂いた。

1月予定のゆうかり学園合同の生花展示会は、感染症の対応により開催中止になったが、次年度も継続実施する予定。

次年度も、3寮合同によるレクリエーション会（保護者参加型）、なかよし寮の日帰りバス旅行（保護者様参加）を実施の方向で計画する。

### 【なかよし寮】

#### （生活援助）

本年度は、一人一人のニーズに合わせた個別支援計画に基づき、充実した毎日を送れることを目標とした。

学校を卒業した利用者様には、全体活動（午前活動・午後レクリエーション）や個別活動（アレンジ教室・生花教室・音楽教室）・趣味活動（ゲーム・DVD鑑賞・写真撮影）等の内容を工夫して実施した。

就学児の利用者様には、長期休暇（夏休み）を利用しての外出やセンター内行事（調

理実習・生花教室)等を行った。又、土曜日の午後に数名ずつのドライブを一年通して行った。更に、特別支援学校との連携を密に行い、学業の向上と学校生活の充実に行えるようサポートした。

(センター外活動)

買い物外出	4/11 (木)	3名
買い物外出	4/12 (金)	3名
身体障害者体育大会	5/ 2 (木)	3名
センター外活動	5/13 (月)	2名
買い物外出	6/10 (月)	3名
買い物外出	6/21 (木)	3名
買い物外出	6/24 (月)	2名
買い物外出	6/28 (金)	3名
買い物外出	8/ 8 (木)	3名
買い物外出	8/22 (木)	2名
買い物外出	8/29 (木)	2名
買い物外出	9/26 (木)	3名
買い物外出	9/27 (金)	3名
買い物外出	9/30 (月)	3名
児相交歓大会	10/26 (土)	3名
みかん狩り	11/ 5 (火)	7名

(センター内活動)

花祭り	4/ 6 (土)	全員参加
端午の節句	5/11 (土)	全員参加
日産労連 2019 チャリティーキャラバン	5/17 (金)	希望者参加
三寮合同お楽しみ会	5/26 (日)	全員参加
七夕	7/ 6 (土)	全員参加
茶話会	7/19 (金)	学卒
調理実習	8/16 (金)	6名
お楽しみ会	8/28 (水)	全員参加
クリスマス会食事会	12/18 (水)	全員参加
クリスマス演芸会	12/25 (水)	全員参加
成人の祝い	1/16 (木)	学卒者
節分	2/ 1 (土)	全員参加

ひな祭り	3/ 7 (土)	全員参加
茶話会	3/19 (木)	全員参加
誕生会	第 3 土曜日	全員参加

(ボランティア・慰問)

アレンジ教室	毎週木曜日	希望者
生花教室	毎月第 2 火曜日	希望者
学童児生花教室	6 月～1 月の第 1 土曜日	3 名
音楽教室	2～3 ヶ月の第 2 金曜日	11 名

**【おひさま寮】**

(生活援助)

おひさま寮では引き続き日課の改善に取り組み、週 3 回の入浴の確立と利用者様が日々充実した生活が送れるよう支援、活動に取り組んだ。昨年の反省を基に、外出の機会を多くできる様に、医療スタッフにも理解して頂き、月 1 回の買物外出、毎週土曜日のドライブ外出は昨年度より多く実施する事が出来た。

園内行事については、季節に沿った活動を保育士が中心として、それぞれ工夫をして実施した。また、利用者様を交えての製作物にも熱心に楽しみながら取り組み、毎回の掲示物がとても変化溢れるものとなった。

個別支援計画による活動は、園内後見人及び担当スタッフが中心となり散歩、音楽鑑賞、お絵書き、パソコン等の趣味的活動、タッチケア、整容動作、スキンシップ等それぞれ目的を持って支援した。

1 年を通じて利用者様の状態も変化する中で、健康、安全、快適な生活が送れるよう支援した。

◎ 慰安・娯楽

(活動内容)

(園内活動)

花祭り	4/ 3 (水)	(全員)
ドライブ外出	4/ 6 (土)	(2 名)
ドライブ外出	4/13 (土)	(2 名)
買物外出	4/16 (火)	(2 名)
ドライブ外出	4/20 (土)	(2 名)
ドライブ外出	4/27 (土)	(2 名)
端午の節句	5/ 8 (水)	(全員)



ドライブ外出	5/11 (土)	(2名)
ドライブ外出	5/18 (土)	(2名)
三寮合同お楽しみ会	5/26 (日)	(全員)
買物外出	5/30 (木)	(2名)
日帰り旅行	6/19 (火)	(14名)
ドライブ外出	6/22 (土)	(2名)
ドライブ外出	6/29 (土)	(2名)
七夕	7/ 3 (水)	(全員)
ドライブ外出	7/ 6 (土)	(2名)
盆踊花火大会	7/25 (木)	(17名)
※不参加利用者様は、学園にて花火、レクリエーションを実施		(22名)
買物外出	7/30 (日)	(2名)
ドライブ外出	8/ 3 (土)	(2名)
ドライブ外出	8/10 (土)	(2名)
ドライブ外出	8/17 (土)	(2名)
ドライブ外出	8/24 (土)	(2名)
茶話会	8/28 (水)	(全員)
買物外出	8/30 (金)	(2名)
ドライブ外出	8/31 (土)	(2名)
ドライブ外出	9/ 7 (土)	(2名)
買物外出	9/20 (金)	(2名)
ドライブ外出	9/21 (土)	(2名)
ドライブ外出	9/28 (土)	(2名)
ドライブ外出	10/ 5 (土)	(2名)
学園運動会	10/19 (土)	
※天候不順により、おひさま寮内でのレクリエーション		(全員)
ドライブ外出	11/30 (土)	(2名)
ドライブ外出	12/14 (土)	(2名)
クリスマス、食事会	12/18 (水)	(全員)
茶話会	1/29 (水)	(全員)
節分	2/ 5 (水)	(全員)
ひな祭り	3/ 4 (水)	(全員)

◎ その他主な活動

○毎月第3水曜日誕生会(全員参加)      ○集団レクリエーション(月3回)

○理容(2ヶ月1回程度)

○音楽活動(日常的)

○居室内レクリエーション(月2回)

## 【ともだち寮】

(生活援助)

今年度の午前グループ活動は、保育士を中心に、散歩、ゲーム、タッチケア、生花教室、レクリエーション等を実施、またバスドライブ外出や季節に応じた行事等を実施した。希望外出(野球観戦・カラオケ・ラジオ局見学・買い物等)では利用者様へ事前に要望を聞き実施した。しかし、週3回の入浴、感染症対応などの影響もあり前年度より実施回数が減る傾向にあったため管理課の協力の下、午後からのバスドライブ外出を取り入れ実施した。

個々のニーズを把握し、個別支援プランに沿った支援の提供を行い、日常生活に変化をつけ、より快適、安全に過ごして頂けるように今後も継続して支援を行う。

(園外活動)

(1) ドライブ外出		年間一人14回程度参加
(2) 久留米児童相談所管内交換大会		2名参加
(3) 身体障害者体育大会	5/2	2名参加
(4) カラオケ外出	5/14	2名参加
(5) 買い物外出	4/23・4/25・5/16・6/20・8/27・8/28・9/11 9/12・9/17・10/28・10/29・11/28・11/27・12/20 12/19	30名参加
(6) 野球観戦	6/13	2名参加

(全体行事)

(1) 花祭り	4/3 (水)	全員参加
(2) 端午の節句	5/8 (水)	全員参加
(3) お楽しみ夕食会	5/16 (日)	全員参加
(4) 七夕	7/3 (水)	全員参加
(5) 食事会	9/25 (水)	全員参加
(6) クリスマスお楽しみ会	12/22 (木)	全員参加
(7) 節分	2/7 (水)	全員参加
(8) 雛祭り	3/7 (水)	全員参加
(9) 誕生会	毎月第三水曜日	全員参加
(10) グループ活動	毎週 月, 水, 木, 金 (午前)	4~6名参加

(11) 生花教室 毎月第四火曜日 各3名参加 (5グループ)

<実習生の受け入れ 3寮分>

・筑紫女学園大学	30名	・精華女子短期大学	45名
・中村学園大学	6名	・西九州大学短期大学部	12名
・西九州大学	3名	・西南学院大学	1名
・中村学園大学短期大学部	12名	・久留米大学	3名
・福岡こども短期大学	2名	・香蘭女子短期大学	38名
・福岡工業大学	1名		

(計153名)

<出張関係>

- H31. 4. 23 福岡県身体障害者施設協議会第1回研修委員会  
春日市 育成員1名
- H31. 5. 10 平成31年度 第1回児童福祉施設連絡協議会意見交換会  
久留米市 育成員1名
- R1. 5. 23 要配慮者利用施設 避難確保計画作成の説明会  
久留米市 育成員1名
- R1. 5. 28～5. 31 第85回重症障害児(者)療育職員講習会  
東京都板橋区 保育士1名
- R1. 6. 5・12 社会福祉施設役職員研修 基礎研修  
春日市クローバープラザ 育成員1名
- R1. 6. 27～28 福岡県身体障害者施設協議会 第1回施設長職員研修会  
北九州市 育成員1名
- R1. 8. 27～28 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程管理職員コース  
春日市 保育士1名
- R1. 9. 5～6 第64回西日本肢体不自由児施設運営研究会  
愛媛県松山市 育成員1名、保育士1名
- R1. 9. 19～20 令和元年度 第38回九州身体障害児者施設研究大会  
大分県大分市 育成員1名
- R1. 9. 20 第14回支援ネットワーク会議  
大刀洗町 聖ヨゼフ園 育成員1名、保育士2名
- R1. 9. 24 令和元年度 災害対策セミナー  
福岡市 育成員1名
- R1. 10. 3～5 令和元年度 第39回全民連中堅職員研修会

沖縄県那覇市 育成員 1 名

R1. 12. 3～5 重症心身障害児者施設職員研修会「保育士児童指導員コース」

大阪市山西福祉記念会館 育成員 1 名

R1. 12. 13 令和元年度 第 3 回児童福祉施設連絡協議会意見交換会

久留米市 育成員 1 名、保育士 1 名

R1. 12. 18 久留米児童相談所管内児童交流交歓大会実行委員会反省会

久留米市久留米児童相談所 育成員 1 名

R1. 1. 8 他 7 回 令和元年度 福岡県子育て支援員研修

久留米市 保育士 1 名

### 《概況》

2019年度は心理療育部として、一般生活援助業務との一部兼務で心理的援助活動を業務指針に基づき展開した。主な内容は、利用者の日常生活の観察、触れ合い並びに治療・検査場面を通じて心理的関係性をつくることである。また重症児・者に対しては、他領域との連携のもと心理的側面から、適正ポジショニング活動やタッチケア、「いい表情づくり」活動などを通じ、個としての尊重を基本として業務を行った。

地域支援としては、子どもの発達や母親の子育てなどの心理相談の要請に対し、市町村と連携・協力しながら、子育て・家族関係・就園・就学、そして発達についてなど心理支援を実施した。それに伴い、外来診察及びコアラ園利用案内さらに来所にての心理相談や外来での心理療育につなげるケースも増加した。保育所等への支援については、定期的な巡回相談が始まった地域においては、それ以前に比べ、小学校への就学委員会での保護者様と学校のよりよい共通理解が図られ、就学案内がスムーズになったとの好評価も得ている。さらに、その他の地域においても、個々の対象児ごとに必要に応じて療育場面の見学や関わり方の方向性など、それぞれの保育所等との情報交換もニーズに応じて行った。

### 《心理療育・相談援助の内容》

「落ち着いているか」「安心しているか」を治療の基点として「人と関われるか」「関わりは適当か」更に「楽しんでいるか」「喜んでいるか」との相互機能関係により個々のニーズに応じ、絵画表現療法、箱庭療法、抱っこ法・タッチケア、遊戯療法・行動療法、カウンセリング、感覚統合法、知育活動、音楽療法などを施行した。心理的関わりの中で、寄りかけられる存在として、日常の触れ合い、遊び、介護、その他を通じての信頼関係作りが主要テーマである。

地域における相談活動においては、母子並行面接を基本として、限られた時間の中でいかに波長を合わせ、行動・状況の背景理解を図り、悩み・心配・不安に寄り添い、より具体的対応や共感的援助をしていけるかを目標に、心理判定並びに相談を行った。

### 【なかよし寮】

- ① 遊びを媒介とした自己表現（投影・情緒解放）
- ② 発達援助＝知育活動（情緒安定を基盤とした認知学習）・感覚運動
- ③ 面談援助 解決→解消（うなずく・聴く・心の汲み取り・共感・発散・個として

の尊重)

- ④ 困った行動（表現として捉える）癖・攻撃・熱発・下痢・身体表現等の理解
- ⑤ 音楽療法
- ⑥ 散歩（寮内・園内・園外）
- ⑦ タッチケア・マッサージ
- ⑧ 知能検査・発達検査
- ⑨ 自由訪室

### 【おひさま寮・ともだち寮】

- ① 多動・興奮行動への対応 散歩法 「エネルギーの解放」
- ② 腹臥位を基点としたポジショニング（活動協働）
- ③ 面談（心のエントツそうじ・表出能力に応じた受けとめ）
- ④ 音楽療法（集団／個別）
- ⑤ 介護支援
- ⑥ タッチケア、絵本、絵カード、語りかけなど「いい表情づくり」活動  
「集団の中での個としての尊重」
- ⑦ 知能検査・発達検査

### 【児童発達支援センター コアラ園】

- ① 発達支援（個別・集団）
- ② 遊戯療法（感情表現・認知発達・感覚運動調整）
- ③ 音楽療法（集団／個別）
- ④ 母親等へのカウンセリング（子どもの理解～プラス面へのスポットライト）
- ⑤ 行事（計画立案・実施）
- ⑥ 就学・就園（保育園等）相談援助
- ⑦ 知能検査・発達検査

### 【外来療育】

心理療育部における外来療育は、増加しつつある発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害など）に対する心理的発達支援を行うと共に、心因反応としての神経性習癖（チック、吃音、緘黙など）や、不登校を含む子育て不安などへの精神保健的相談・療育を行った。それらの中に、診察待ち期間の療育・相談、コアラ園の前段階としての外来での個別療育のケースなどを含めた多様な外来療育のニーズに対応させていただいている。

《治療対象児・者》

日常の行動観察、生育歴、身体障害の程度、家庭環境などから、精神的サポートの必要性和質に応じて、下記人数に対し、定期的あるいは不定期的に行った。心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種との連携をもとに対応を行った。

※短期利用者を含む 単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	計
治療対象児・者 ※	44	41	46	93	224

《音楽療法対象児・者》

入所においては表出能力に困難のある利用者を優先的に、必要性に応じて下記人数に対して行った。コアラ園・外来においては、医師の指示または保護者からの要望に応じて対応を行った。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	計
音楽療法対象児・者	23	37	36	13	11	120

《心理検査》

知能検査と発達検査は定期的に行い、その他の検査、評価は必要に応じて行った。本年度は、特別児童扶養手当・障害者福祉手当の申請に伴う検査や、保護者からの検査依頼が多かった。実施数は下記の通りである。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	地 域
発達検査	2	3	0	0	2	0
知能検査	3	0	4	11	48	7
性格検査	0	0	0	0	0	0

《地域支援》

地域支援事業は市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所等とも情報交換・共通理解に努め、相互の子ども支援に有効に機能した。今後も地域の信頼に適確に応じていく事業展開を目指したい。

本年度より、久留米市において、市役所での乳幼児健診が追加され、年2回、土日の日程で行われた。

※台風や、新型コロナウイルスの影響で、実施中止となった日程がある。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診		計11回 対象者300名うち相談者37名 別件15名	
	3歳児健診		計11回 対象者334名うち相談者45名 別件15名	
	朝倉・杷木健診		計6回 対象者76名うち相談者9名 別件4名	
	にこにこども相談		計8回 相談者29名	
うきは市	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者204名うち相談者17名 別件5名	
	3歳児健診		計6回 対象者218名うち相談者20名 別件2名	
	すくすく発達相談		計12回 相談者30名	
	保育所等巡回相談		計40回	
久留米市	田主丸町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者72名うち相談者15名	
		3歳児健診	計3回 対象者47名うち相談者11名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者3名	
	北野町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者95名うち相談者12名	
		3歳児健診	計4回 対象者85名うち相談者20名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計1回 相談者2名	
	三潁町	1歳6ヵ月児健診	計4回 対象者72名うち相談者14名	
		3歳児健診	計3回 対象者74名うち相談者12名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者3名	
	城島町	1歳6ヵ月児健診	計3回 対象者43名うち相談者7名	
		3歳児健診	計3回 対象者51名うち相談者12名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者5名	
	南部	1歳6ヵ月児健診	計6回 対象者180名うち相談者23名	
		3歳児健診	計5回 対象者162名うち相談者30名	
		ママパパ気持ち楽々相談	計2回 相談者5名	
	市役所	1歳6ヵ月児健診	計1回 対象者40名うち相談者6名	
3歳児健診		計1回 対象者39名うち相談者7名		
北筑後保健福祉環境事務所		乳幼児発達診査事業	計4回 相談者11名	
その他の相談対応		電話	11件	
		メール	0件	
		来所	29件	
		訪問	0件	
診察案内※1		75名 (再診・特児30名含む)		
コアラ園心理療育対象児数		5名	コアラ園心理療育回数	52回
外来利用児総数		79名	外来心理療育回数	2,002回
情報提供書作成数※2			178件	

※1：年度内に診察に至った方のみ（年度内に診察の予約をした方は省く）を計上。  
（診察予約は、すでに令和3年3月まで入っている状況）



- ※2：①診察に案内した対象児の発達状況や経過を記入した医師への情報提供書。  
②保護者への心理判定報告書。  
③就学に向けて、就学委員会への（保護者を通して）情報提供書。  
④それぞれの寮への心理判定報告書。  
⑤転勤等の異動による、他の専門機関への情報提供書（保護者渡し）。

《実習生関係等》

公認心理師の国家資格を定めてその業務の適正を図り、もって国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的として、平成29年9月15日に、公認心理師法が施行された。それに伴い、大学院のカリキュラムが変更になったことにより、厚生労働省と文部科学省から、公認心理師要請に係る実習生の受け入れの協力依頼を受けて、2019年度より、久留米大学心理学研究科臨床心理学専攻（大学院）の学生の実習指導を行った（計6名、各5日間）。

《参加出張》

- ・令和元年度 第1回施設長、職員研修会（6月27日）
- ・令和元年度 久留米市乳幼児健康診査あり方検討会（7月4日）
- ・令和元年度 うきは市乳幼児健診実務者会議（10月21日）

### 《概況》

医療療育部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施し、診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）および運動器リハビリテーション料（Ⅰ）で算定請求した。入所部門において6月、9月、12月、3月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった方について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第2火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練部（PT・OT・ST）のスタッフが出席して、リハビリテーション部門カンファレンスを開いている。今年度は感染症の影響で、2月に開催できなかった。内容としては、各寮の利用者様の個別の情報シートを作成した。

訓練は、利用者の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは、成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対しては、発達全体の手助けおよび保護者の指導を目的に、PT・OT・STが密に保護者とコミュニケーションがとれるよう集団でのリハビリテーションではなく、個別のリハビリテーションで対応した。

関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対しては、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や移動・移乗・食事介助などの方法について、インシアチブを取りアプローチすることで利用者のQOLの向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者に対しては、嚥下食を導入し、安全で楽しい食事時間の提供を行っている。

各部門の報告は以下に示す。

### ● 理学療法

#### 【なかよし寮】

対象44名に対し、理学療法士が3～4名で個別に実施し、利用者1名当たりの訓練回数は週1～4回、年間訓練実施単位数は7,302単位であった。

対象児（者）を疾患別にみると脳性麻痺が最も多く、その他は脊椎破裂後遺症、レット症候群、頭部外傷後遺症、筋ジストロフィー、マーシャルスミス症候群、精神運動遅滞などであり、他の疾患と重複する例が多い。

訓練内容は、個々のニーズやレベルに合わせた目標を設定し、基本動作訓練、移動能力訓練、筋力増強・持久力訓練、関節可動域（以下 ROM）訓練、日常生活動作（以下 ADL）訓練などの運動療法を感染症が流行した時期以外は定期的な実施が行えた。

学童児への訓練としては、小学生などの年齢的に若い利用者は身体機能向上や移動動作獲得などを主として行ない、歩行能力や応用動作能力の向上がみられた例もあった。中・高等学校生に対しては卒園後を想定した訓練（ADL 訓練・買い物外出・園外活動）を提供することで、社会参加・自立に向けて意識を高め、卒園後の生活に順応できやすいように努めた。また特別支援学校との情報交換を毎月行い学校での状況把握ができるよう努めている。

学卒者への訓練は身体機能の維持向上を図ることを中心に行ったが、中には身体機能の低下がみられ、他院に入院された例もあった。退院後は再評価を行い身体機能維持のため姿勢保持具の検討・作製を行なった。

また、全利用者に対し車椅子や装具、姿勢保持器具などを随時検討、作製し環境面からの援助も行っている。

今後も引き続き他職種や特別支援学校と連携を図ることでニーズや問題点を的確につかみ、現状に合ったより良い訓練・療育を行なうよう心掛ける。

## 【おひさま寮】

対象 41 名に対し理学療法士 2～3 名で実施年間訓練実施単位数は、6, 201 単位であった。

対象児（者）は、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人が多く、生活のあらゆる場面において介助が必要である。ベッド上でも非対称な姿勢になることが多く、姿勢の管理や変形・拘縮を防ぐことが重要である。また、近年は加齢に伴い身体機能面の低下がみられる利用者も目立っており、気管切開・胃瘻の方が増えている。人工呼吸器を使用している利用者もおり、日常のリスク管理は非常に重要となっている。

訓練内容としては、変形・拘縮の予防のため ROM 訓練を中心にマッサージ、リラクゼーションを行なった。また、人工呼吸器や気管切開の利用者の呼吸状態安定を図るためにポジショニング、排痰や呼吸介助（スクイーピング）などの理学療法を行った。動くことができる利用者には床上でのローリング移動や器具を使用しての歩行を積極的に行った。毎年 1 回、個人の身体機能面の評価として ROM の計測を実

施し、前年の数値と比較検討し利用者の生活に活かされるよう取り組んだ。

人工呼吸器を使用している利用者や感染症の利用者は、居室から出る機会が少なくいろいろな面で活動範囲が制限されているため、人工呼吸器を装着した状態での車椅子移動や感染症利用者には外気浴などできる活動範囲内で楽しみを見つけ実施した。特に訪問授業を受けている人工呼吸器使用の学童児については、授業に参加して寮外への散歩や遊具の体験などを共同して行った。

病棟職員に対しては、他職種と情報交換をおこない協力しながら、姿勢ケアを促し、寮内のカンファレンス時に利用者個別の車椅子姿勢やポジショニングなどについて説明を行った。また、個々にあったプロンキーパー・頭部保持クッションや側臥位保持用クッションを作製し、リラクセーション・排痰・側彎変形・拘縮の進行予防に努めた。

### 【ともだち寮】

利用者 46 名に対し理学療法士 2～3 名(内 1 名は外来・コアラ園と兼任)で行い、年間訓練実施単位数は 8,249 単位であった。今年度においては感染症が拡大することなく、各利用者ともに定期的に訓練を実施することができた。

利用者の疾病状況は脳性麻痺(および関連疾病の重複障がい者含む)が 72%、その他、化膿性髄膜炎後遺症、脳損傷後遺症、脳炎後遺症、視力障がい、筋強直性ジストロフィーなどが 28%となっている。

壮年期・中年期の利用者が多く、年々、四肢の関節可動域や筋力などの身体機能が低下する傾向にある。今年度は利用者の数名が深部静脈血栓症や中等度から重度の浮腫の発症、その他昨年度と同様に過ごされていた中での褥創・皮膚炎の発生(皮膚などの状態が低下した上での圧迫による)など、姿勢管理の重要性がより高まる 1 年であった。姿勢管理については車いす上での姿勢、食事動作などを見直し再評価し、新たに 6 名の利用者の車いすを作製した。

リハビリテーションの内容は四肢の ROM 訓練やリラクセーション、歩行や車椅子駆動などの自力移動訓練を中心に行ない、ご自身での姿勢管理が困難な利用者に対しては車椅子上・ベッド上でのポジショニングを再検討し、それぞれの身体に適合するクッション作製や、褥瘡予防用具などの用意および車いすの調整などにも取り組んだ。

また高齢化に伴う身体機能、運動能力の低下、移乗時に転倒リスクの高い利用者については、多職種と連携を取り合いベッドからの立ち上がり動作、トイレ動作などを検証し利用者が安全に安楽に日常動作ができるように環境設定にも取り組む 1 年であった。

## ● 作業療法

### 【なかよし寮】

対象者 44 名に対して、なかよし寮担当作業療法士 3 名（コアラ・外来兼任 1 名）が週 1～2 回個別で行い、年間訓練実施単位数は 6,602 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、広汎性発達障がいなどである。

訓練内容は、身体機能面（特に上肢機能）の向上および維持を目的に、関節可動域訓練やリラクゼーション、玩具や感覚遊び、作業活動を媒介としたアプローチを行なった。また、身の回りの動作の向上を目標に周辺環境の調整も行いながら、直接的かつ反復した取り組みを行った。

3 寮合同のグループ活動では、それぞれ特徴的な障がいがあるにも関わらずゲームや感覚遊びなどを行い、楽しみを共有・共感できる場として活用した。しかし感染症の関係もあって、実施できない時期もあった。

### 【おひさま寮】

対象 41 名に対し、作業療法士 2～3 名（7 月～11 月はコアラ兼任者含む 3 名で対応）が週 1～2 回個別で実施し、年間訓練実施単位数は 5,967 単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症などの中枢神経系の異常による重度の運動機能障がいや重度の知的障がいの重複などであった。視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており症状も重度化している。また、人工呼吸器での呼吸管理や経管栄養が増えており、リスク管理は非常に重要である。

訓練内容としては、身体機能の維持、ADL の改善、精神面の安定を目的に関節可動域訓練、ADL 訓練（食事動作）、集団活動、感覚訓練（トランポリン、スイングなど）を行った。また、寮内での生活が中心となっている利用者に対し、他寮や屋外への散歩を行うことで、環境の変化による感覚的な刺激を経験し、四季それぞれの季節感を感じてもらった。特に人工呼吸器、感染症の利用者は、居室から出る機会が少ない現状であったため、PT・ST と合同で人工呼吸器を使用した状態での車椅子移動や感染症で活動制限がある利用者も可能な範囲内での楽しみ活動（音楽療法、散歩、ドライブ外出、スヌーズレンなど）を実施した。

また、寮内での活動として、その時期にちなんだ壁絵を作成した。セラピストが介助しながらできる範囲で作業に参加してもらい、全員で一つの作品を作り上げ、居室や保護者との面会場所に展示した。

集団活動では、普段あまり関わることのない他寮の利用者と楽しみの共有を目的

として、3 寮合同のグループ活動を実施した。今年度は感染症の関係で集団活動の時間は少なかったものの、トランポリンなどの感覚遊びやゲームをはじめ、水遊びなどの季節を感じることができる活動や製作活動など様々な活動を行うことができた。活動を通して、利用者同士の交流や楽しい雰囲気味わうことができ、病棟ではみられない利用者の表情や反応を見ることができた。

### 【ともだち寮】

対象 46 名に対し、作業療法士 3 名(兼任含む)で週 1~2 回実施し、年間訓練実施単位数は 7,608 単位であった。対象児(者)の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。年々、加齢に伴う身体機能の低下や変形・拘縮もあり、ADL 動作の低下が見られている。

訓練内容としては、身体機能や ADL 動作、認知機能の維持および向上、情緒の安定やリラクゼーションを目的に行なった。その手段として、ROM 訓練や ADL 訓練(食事、更衣、整容)、感覚遊び、製作活動、集団活動などを行なった。

個別活動として、四肢の ROM 訓練やリラクゼーション、パソコン操作など個々のニーズに合わせた様々な活動を行い、利用者の楽しみや達成感、他者からの称賛、自己実現につなげてきた。

集団活動では、病棟内活動として、今年度より音楽療法士と合同で感覚遊びや楽しみの共有を目的とし、歌遊びや楽器遊びを行なった。また、保育士と合同でオイルマッサージやアロマオイルで臭いを楽しむなど多岐にわたる活動を行い、他職種との交流も深めることができた。

病棟外活動として利用者同士との交流を促すため、各病棟の利用者が集まって OT 集団活動を行い、屋外散歩や凧揚げなど季節に応じた感覚遊びや製作活動など様々な活動を行った。また、園芸活動として農作物を育てるなかで季節感を感じたり、収穫の楽しさを共有することで普段あまり関わることのない他寮の利用者と様々な活動を体験することができ、病棟ではみられない利用者の表情や反応をみることができた。

## ● 言語聴覚療法

### 【なかよし寮】

利用者 44 名に対し、言語聴覚士 2~3 名(2 名はコアラ外来との兼任、内 1 名は 4 月~6 月まで担当)が必要に応じて週に約 1~2 回程度実施した。年間訓練実施単位数は 4,592 単位であった。

対象児(者)の疾患・障がいは、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心に、聴

覚障がい、精神運動遅滞、ダウン症候群、自閉症スペクトラム障がい、先天性緊張性ジストロフィーなど幅広く、発達段階の程度も幅広かった。

重度の知的発達の遅れが見られる利用者に対しては、主にスキンシップ、タオル遊び、歌遊び、音遊び、楽器遊び、絵本の読み聞かせなど、遊びを通した楽しい雰囲気、聴覚、視覚、触覚などさまざまな感覚を用いた関わりを行い、感覚・認知・コミュニケーションにおける理解面・表出面（表現方法）の発達を促した。

言語発達の遅れを認める利用者に対しては、絵本の読み聞かせや音読、また、絵カードなどを用いた呼称やマッチング課題、読解や説明課題、書字課題などといった机上課題の他、お絵かきやぬり絵、パズルなど、遊びを通した認知機能へのアプローチを行なった。また、ままごとやゲームなどのやりとり遊びなど、各利用者の発達段階に応じた内容で訓練を行い、言語機能とコミュニケーション能力の成長を促した。

音声言語によるコミュニケーションが困難な利用者に対しては、コミュニケーションボード、手話や指文字などの代替手段、視覚的手段、非言語的コミュニケーションの支援を行った。

発声発語器官の麻痺や運動制限などによる発声発語障がいを認める利用者に対しては、発声発語器官を中心としたリラクゼーションや運動、また発声訓練や音読などの構音訓練を行った。

摂食嚥下機能障がいを認める利用者に対しては、口腔器官への刺激入力やマッサージなどの間接訓練、および食物を用いた直接訓練などを行った。また、咀嚼機能の未熟な利用者に対し、食品を用いた咀嚼訓練や、様々な味・食感を体験してもらうための摂食訓練を行った。それぞれの機能、能力に加え、保護者や利用者自身の要望などを考慮しつつ、他職種と連携して安全かつ利用者が満足できるような食形態や介助法を検討した。

また、これまで寮内における季節ごとの行事にて提供されるおやつについては、給食部を介さず、利用者の要望をもとに病棟スタッフにて選定されていたが、利用者の要望と摂取時の安全性の両方を確保する目的で、令和元年度より、行事おやつの選定と適切な手元調理、介助法の検討に加わった。それぞれの立場からの意見を持ち寄って検討することにより、安全かつおいしくおやつを食べて頂けるような体制が整った。

### 【おひさま寮】

必要性の高い対象者を中心に主に言語聴覚士2名で週1～3回個別に実施した。年間訓練実施単位数は4,980単位であった。

対象の病名・障がい名としては、脳性麻痺、精神(発達)遅滞などを中心とした身

体障がいと知的障がいを併せ持つ重度の重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練（口腔とその周辺のケアや活性化を含む）、摂食・嚥下訓練、発声発語器官に対しての筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクゼーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽を用いた聴覚的な刺激による訓練などを行った。

摂食に関しては、広く摂食・嚥下に関する器官に対しての感覚訓練、筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や味覚学習などの口腔内感覚の改善、食物を直接用いない間接嚥下訓練、摂食・嚥下機能そのものの維持・改善訓練、介助法の改善、食形態の調整、頸部や体幹の座位姿勢の調整、姿勢を安定させ筋緊張を緩和するためのクッションなどの調整、他職種に対して情報の伝達、食べ物に対する心理的拒否に対して安心して食べられるためのアプローチなどを行い、改めて経口摂取されている対象者の食事能力を評価した。また、これらを通じて摂食・嚥下機能の維持・向上を行い、安心して快適にスムーズに食事ができるための支援を行った。

おひさま寮の最重度の心身障がい児（者）に対して、リラックスした楽しい関わりの中で、心地のよい聴覚的刺激・視覚的刺激や身体的感覚などを充足させるアプローチを通して、心身が満たされ、ゆったりと落ち着くことができるような関わりを持ち、感覚・認知・理解面の成長も促した。

iPad やパソコンなどの機器を用いて、重度心身障がい児（者）でも楽しめ使用可能な機能を使って効果的に発達を促し生活の充実を目指した。

呼吸器系障がいに対しては、排痰、口腔内清掃やマッサージなどによる口腔内機能の活性化および表情筋の拘縮の予防を行っている。呼吸器やその関連する器官の環境を整え、できる限り状態を改善して、穏やかに生活できるよう支援を行った。

### 【ともだち寮】

言語聴覚士1名（6月～11月産前休暇により専任ST不在期間あり）にて必要性に応じ訓練頻度の変更などを行いながら実施した。年間訓練実施単位数は3,088単位であった。

対象者は脳性まひ、精神発達遅滞、てんかんなど様々で、年齢も10代から60代と幅広い。

話すことが難しい利用者に対しては、コミュニケーションボードの練習やパソコンやスイッチの使用を行った。また、iPad やスイッチを使って自分で機器を操作して、主体的にコミュニケーションを取っていただき、楽しく活動をする取り組みを行なった。さらにパソコン操作の訓練の一環として、インターネットで関心事を検索および動画を見るなど余暇活動の充実を図った。

摂食・嚥下に関しては、直接的な摂食訓練の他、介助法の改善、姿勢の調整、食



形態の調整、使用する食器具の検討などを行った。誤嚥性肺炎後の利用者には集中的にアプローチし、介助方法を病棟スタッフへ指導し誤嚥性肺炎の再発防止に力を入れた。経管栄養の利用者へは口腔機能の維持や唾液の誤嚥による誤嚥性肺炎予防のため、口腔ケアやマッサージ、嚥下反射を促す訓練などを行った。

音声言語面の訓練としては、構音訓練、会話や発声、唄を歌うことによる発声発語器官の運動による訓練を行った。また、音楽療法との合同訓練により、歌や発声楽しみながら呼吸機能、発声・発語機能の維持、向上に努めた。

## 『コアラ園及び外来』

### ● 理学療法

対象 83 名（契約利用者 6 名、外来利用者 77 名）に対し、外来担当理学療法士 2 名を中心に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 4,849 単位であった。

対象児（者）は、脳性麻痺による重症心身障がいや肢体不自由児、精神運動発達遅滞、ダウン症候群、などとなっており、年齢も 1 歳の幼児から成人までと幅広い。

以下年代別に取り組みを報告する。

#### ○乳幼児期から学童期

運動発達の促進や基本動作能力の獲得を目指し実施した。遊びの中で寝返る、座る、立ち上がって歩くなどの基本動作能力の向上を図った。その一環として、必要に応じて自助具や姿勢保持用クッションの作製、福祉機器（ウォーカーや装具）の提案を行ない作製した。そのことで身体機能面の向上だけではなく、情緒面の発達および生活場面の中での自立を促し QOL の向上に努めた。

#### ○学童期から青年期

運動機能の維持向上・変形拘縮予防・二次障がいの予防、介助者の介助量軽減などを個々のニーズに合わせた目標に応じ実施した。継続的な運動能力向上はもとより ADL に必要な動作の練習や環境調整を保護者や支援学校・地域の小学校の先生と情報交換を行ないながら実施した。また、家庭や地域施設で姿勢ケアが実施できるようにクッションを作製し、使用方法を指導したのちに提供した。身体機能面を維持し、介助量の軽減やレスパイトケアなどの福祉サービスの提供について、地域事業部・夢の紀のスタッフと連携を行うなどの多面的な支援も行った。

#### ○耳納学園の利用者

運動能力の維持のため定期的なリハビリテーションを実施した。ADL 面を中心に取り組み、生活に必要な動作を取り入れ練習した。

### ● 作業療法

対象 200 名（契約利用者 66 名、外来利用者 134 名）に対し、作業療法士 3 名を中心に訓練を実施した。利用者 1 名当たりの訓練回数は月 1～5 回、年間訓練実施単位数は 7,212 単位であった。

対象児（者）は発達障がい（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症）、脳性麻痺、神経筋疾患、さらに精神運動発達遅滞など多岐にわたり、対象者も年々増加傾向である。

訓練内容は、トランポリンやボールプール、スイングなどの感覚遊具遊び、縄跳びや鉄棒などの運動遊び、パズルや運筆などの机上活動や巧緻動作、ままごとなどのやりとり遊びを行った。個々の子どもに合わせた発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）に取り組む中での作業遂行能力の向上や子ども自身の気付きの促し、成功体験を通して自己評価の向上など、必要性に応じた取り組みを実施した。また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などに加え、保護者に対して我々スタッフも理解者としての立場を大切にしながら話を聞き、助言・アドバイスを行った。

訓練場面以外では、日常生活で主となる保育園・幼稚園・学校の先生方や放課後等デイサービスなど他事業所との情報の交換・共有を行ない、双方の療育に活かせるように努めた。小学校就学を控える児童に対しては、進路に関わる各関係機関に情報提供を行い、卒園後の支援についての提案や意見交換にも取り組んだ。

## ● 言語聴覚療法

対象 194 名の外来利用者に対し、言語聴覚士 3 名を中心に計 6 名のスタッフで訓練を実施した。訓練は 1 回 2 単位(40 分)を基本とし、頻度は隔週を中心に週 1、月 1 回にて実施した。年間訓練実施単位数は 8,071 単位であった。

言語聴覚療法を利用される対象児は幅広く、「自閉症スペクトラム障がい」「注意欠陥・多動性障がい」「学習障がい」といった発達障がい児、言語発達遅滞児、精神運動遅滞児、構音障がい児、脳性麻痺児、ダウン症などの症候群を呈した児童、摂食・嚥下障がい児、難聴児、吃音児と多岐に渡る。また、対象となる利用者の年齢も幅広く、3～6 歳までの未就学児、7～9 歳までの就学児を中心に、成人の対象者まで対応している。

訓練計画は、観察評価・保護者からの情報収集を元に実施する検査を検討・実施し、その検査結果と観察評価・情報収集した内容を照らし合わせながらを立案している。また、保護者だけでなく、保育園・幼稚園・学校の先生方との情報交換も積極的に行った。

訓練内容は、机上課題や遊びを中心とした課題などを、利用者一人ひとりの状態に応じて選び、言語面・コミュニケーション面の能力向上を促した。

また、保護者や先生方に対する、対象児との接し方や、問題とされる行動への環

境調整なども含めたアドバイス、構音訓練の宿題の提供など、日常生活場面でも、対象児（者）の成長につながるようアプローチを行なった。

また、保護者から悩みや不安の相談がある場面も多く、保護者の気持ちに寄り添いながら、情報提供やアドバイスなどを行なった。

<地域支援事業等>

1. 肢体不自由児早期訓練事業（県肢体不自由児協会委託、飯塚市）  
医師 1名・・・2回      PT、OT 各1名・・・20回      ST 1名・・・6回
2. 乳幼児発達診査（県環境福祉事務所委託、朝倉市）  
ST 1～2名・・・4回
3. 発達相談（朝倉市）  
ST 1～2名・・・8回

<実習生の受入状況>

【理学療法士】

平成31年4月8日～令和元年6月22日

	麻生リハビリテーション大学校	1名
令和元年5月7日～7月9日	柳川リハビリテーション学院	1名
5月7日～6月29日	熊本総合医療リハビリテーション学院	1名

【作業療法士】

令和元年7月1日～9月7日	麻生リハビリテーション大学校	1名
---------------	----------------	----

【言語聴覚士】

令和元年5月7日～6月29日	メディカルカレッジ青照館	1名
令和元年8月26日～10月5日	柳川リハビリテーション学院	1名

《概況》

地域事業部は、障害福祉や療育活動など何らかの支援を希望される地域の方々と、施設を繋ぐ役割として機能した。地域の方々の多様な問い合わせや要望に対して、施設の機能紹介や利用手続きの説明、スムーズな利用に繋がるために相談者と事業所間の連携・調整を図った。

対象地域は、久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせも多数あり、この状況に大きな変化は見られない。

＜相談対応事業＞

地域事業部が受け付けた相談や問い合わせ件数は、次表の通りである。多くはご本人（ご家族）からの問い合わせであり、その他に相談支援事業所や行政、医療機関 SW からの問い合わせである。また、相談受付からゆうかり学園事業所のサービスに繋がる場合、スムーズな利用につなげるため受診予約や連絡調整等も担っている。次表では、実際に施設利用までつながった件数も報告する。

相談内容	相談件数	利用につながった件数
① 施設入所支援について	24	1
② 短期入所・日中一時支援について	9	2
③ 児童発達支援関係について	15	7
④ 外来療育・リハの利用について	67	18
⑤ 見学依頼など	21	18
⑥ その他の相談	22	0

- ① 施設入所については、24 件の問い合わせに対してゆうかり医療療育センターで 1 名の入所支援につながっている。入所の問い合わせは、人工呼吸器使用の重症の方や介護保険が適応されるような高齢の方、知的障害がメインで療養介護が該当しない方が大多数であった。療養介護に該当しない方や対応困難のためお断りしたケースが 11 件、手続きなど説明のみで終わりその後連絡のないケースが 10 件程度あった。
- ② 短期入所や日中一時支援についての問い合わせも、重症や多動の方、衝動性のある方が多く、在宅での支援の難しい現実が感じとれる。2 名の契約に繋がったが、呼吸管理の必要な方など重症児（者）の方の利用は受け入れ体制においてお断りせざるをえなかった。地域の療養介護事業所としては今後の課題といえる。
- ③ 児童発達支援については、利用を希望され契約まで至ったケースは 7 例である。利用希望から契約まで時間を要しているため、療育現場ではお試し利用やつなぎ

療育などで少しでも早く療育につなげるよう工夫している。

- ④ 外来療育・リハについては、相談 67 件中 18 件が診察を経て訓練部や心理療育部の療育・リハにつなげている。児童発達支援と同じで、相談受付から診察までかなり時間を要しているためこのような数字になっているが、相談受付後連絡無いやキャンセルされた方が 27 名、未受診の方が 19 名おられる。
- ⑤ 見学依頼については、受付 21 件に対し 18 件が実施でき、ほぼ依頼に対応できた。感染症が心配される 11 月から 2 月の間も、見学ルートを制限して見学対応した。
- ⑥ その他の相談は、法人内事業所の受け入れ状況や利用手続き等の確認、計画相談の依頼、職場体験施設としての依頼、排泄指導、発達障害に対する内服処方の有無、診断確定の依頼、宿泊依頼、医師意見書作成の依頼、過去の自己カルテ照会依頼の相談など、多岐にわたった。

#### <短期入所予約調整業務>

ゆうかり医療療育センターにおける短期入所及び日中一時預かりの予約受付と調整業務を地域事業部で行い、スムーズな短期入所利用につなげた。毎回、前月の 10 日までに利用予約を受け付け、15 日までの間に調整会議を開き利用可否を決定した。冬場は、感染症等の影響によりお断りするケースもあった。年間の利用者延べ人数は、次表の通りである。

(年間利用延べ人数)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
なかよし寮	宿泊	4	2	4	2	9	0	11	8	16	6	6	13
	日中	9	14	6	11	10	5	3	4	3	1	1	8
おひさま寮	宿泊	15	11	14	14	16	16	14	0	5	5	15	14
	日中	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
ともだち寮	宿泊	14	8	13	20	25	15	7	8	12	13	15	15
	日中	3	6	1	6	1	4	3	1	4	2	2	3

#### <施設見学案内>

地域事業部が 2019 年度中に施設見学を受け付け案内した外部の組織・団体は、12 団体計 250 名であった。例年 11 月から 2 月までの 4 か月間は感染症等対策のため見学の受付をお断りしていたが、本年度はその間も少しでも地域に開かれた施設を目指すという目的の元、見学施設を限定するなど対策を講じながら受けることとした。

団体の内訳は、主に近隣地域の社会福祉協議会や民生・児童委員など人権・福祉関係団体の方々であり、見学目的は所属団体委員の資質向上や啓蒙活動を目指した「研修の一環」としたものが多かった。

見学案内の方法は、法人沿革や各施設の概要を要覧や学園紹介 DVD を通じて説明した後、地域支援棟・コアラ園⇒ゆうかり学園本館棟⇒ゆうかり医療療育センター→3

寮⇒千歳療護園および第二千歳療護園⇒耳納学園の順で巡回・案内し、耳納学園では製品販売に少しでも協力いただけるように工夫した。見学案内の時間は概ね2時間ほどを要するが、時間の制限がある場合や冬場の感染症発生時は、案内区域を限定して対応した。

見学案内実績内訳は、以下の通りである。

月	日	曜日	時間	団体名	人数
5	15	水	9:00～13:00	田主丸地域婦人会連絡協議会（除草作業・見学）	28
6	24	月	9:30～11:00	日田市咸宜地区民生・児童委員協議会	15
7	11	木	10:00～12:00	久留米市上津校区民生委員児童委員協議会	22
9	9	月	10:00～11:30	久留米市津福校区津福ひとづくり大学家庭学級生	20
9	11	水	10:30～12:00	久留米市南薫校区社会福祉協議会及び共同募金会	22
9	25	水	10:30～11:30	博多区第2地区民生委員児童委員協議会	27
9	27	金	10:30～11:30	からつ医療福祉センター家族会	30
10	11	金	15:30～16:30	社会福祉法人こぐま福祉会相談担当職員	3
10	16	水	10:00～11:30	福岡市早良区社会福祉協議会	37
10	24	木	10:00～12:00	筑紫女学園大学学生	21
10	29	火	10:00～12:00	春日市子育てボランティアどんぐり	16
11	28	木	10:10～11:50	水縄校区人権啓発協議会	9

#### <出張関係>

8月8日 令和元年度第2回社会福祉法人経営者セミナー…上原

9月19～20日 第38回九州身体障害児者施設研究大会…上原

2月10日 地域の支え合いブロック別交流研修…上原

（その他の会合出席等）

○ 久留米市ライフレスキュー事業連絡会・作業…2回

○ うきは市地域障害者協議会（計画相談部会等含む）…5回

○ うきは市要保護児童対策地域協議会実務者会議…4回

## 給食部（中央給食）

給食部理念：栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜び、大切さを伝える。

### (1) 区分別熱量

ゆうかり医療療育センター、耳納学園、千歳療護園の区分別熱量に差があるので、副食の量をそろえ、主食の量で調整している。

(単位 Kcal)

	ゆうかり	千歳	耳納
中		2,020	2,200
A	2,100	1,830	
B	1,960	1,550	
C	1,470	1,270	1,640
D	1,250		1,350
E	1,080		

### (2) 行事食

2019年

- 4/14 千歳療護園 40周年開園記念日 ケータリング
- 4/25 耳納学園開園記念日 外注弁当、ケーキ、ジュース
- 5/26 ゆうかり三寮合同レクリエーション  
弁当（ゆかり飯、牛肉の照り焼き、人参ソテー、ブロッコリー  
焼き茄子サラダ、苺、キウイ）
- 6/2 ちとせ祭 カレーライス、握りずし
- 6/20 耳納学園夕食会 ソーメン、いなりずし、巻きずし、スイカ
- 7/25 盆踊り大会  
カレーライス、バナナ  
模擬店（焼き鳥、たこ焼き、焼きそば、綿菓子、ジュース）
- 8/1 第二千歳療護園開園記念行事 外注弁当、ケーキ、飲み物
- 8/11 耳納学園一日レクリエーション カレーライス、サラダ、アイス
- 8/28 なかよし寮お楽しみ会  
焼き鳥丼、ほうれん草の和え物、なめこ汁、プリンアラモード
- 8/29 千歳納涼祭 バーベキュー、焼きそば、おにぎり
- 9/25 ともだち寮お楽しみ会  
焼きめし、コーンスープ、マカロニサラダ、  
フルーツ・プチケーキ盛り合わせ
- 9/26 耳納学園夕食会 チャーハン、ギョーザ、デザート（アイス）

- 10/19 ゆうかり学園運動会  
耳納学園・外注弁当  
ゆうかり学園・千歳療護園・弁当  
御飯、唐揚げ、ハンバーグ、サンマの胡麻揚げ、ポテトサラダ  
キャベツソテー、中華和え、ウインナー
- 11/ 3 特別支援学校文化祭 弁当  
御飯、焼き魚、シューマイ、卵焼き、ウインナー、マカロニサラダ  
トマトゼリー、ブロッコリー、サニーレタス
- 11/21 耳納学園 夕食会 すき焼き、カレー鍋
- 12/12 千歳療護園浮羽消防署指導避難訓練、餅つき慰問  
餅（おろし餅、あん餅）ぜんざい、おにぎり
- 12/18 ゆうかり医療療育センター クリスマス会  
チキン盛り合わせ（からあげくん、エビマヨ、ウインナー）  
ステーキ、ハンバーグ、ポテトサラダ  
ナポリタン、お好み焼き、クリームコロッケ  
フルーツ盛り合わせ、ケーキ盛り合わせ  
いなり寿司、おにぎり（なかよし寮、ともだち寮）  
茶わん蒸し（おひさま寮）
- 12/18 千歳療護園忘年会  
ロブスター、チキンナゲット、ステーキ、揚げたこ  
ポテトサラダ、ミートボール、ナポリタン  
おにぎり、いなりずし、巻きずし、サラダ巻き、納豆巻  
おつまみ、ケーキ盛り合わせ、飲み物
- 12/18 耳納学園忘年会  
ローストチキン、ピザ、ステーキ、ウインナー、  
ハンバーグ、ポテトサラダ、ナポリタン、エビマヨ、カニの爪  
サラダ巻き、かっぱ巻き、いなりずし  
フルーツ・ケーキ盛り合わせ
- 12/26 耳納学園餅つき（あんこ餅、黄粉餅、おろし餅）

2020年

- 1/ 1 おせち料理（昼）  
がめ煮、干支かまぼこ、昆布巻、エビのつや煮、伊達巻、紅白なます  
寿羊羹、あけぼの巻き、数の子、苺、牛肉の八幡巻き
- 1/ 7 朝 七草の味噌汁  
昼 七草かゆ（千歳）



- 1/23 耳納学園一日レクリエーション（喫茶）  
ロールケーキ、飲み物
- 2/ 3 耳納 節分 巻きずし
- 2/20 耳納学園夕食会 ちゃんこ鍋、もつ鍋
- 3/12 耳納学園一日レクリエーション ラーメン

(3) 研修関係

- 2019年6月 福岡県障害者支援施設協議会 筑後ブロック施設長会 (八女市)
- 6月 第1回特定給食施設等研修会 (久留米市)
- 8月 第43回全国身体障害者施設協議会 (札幌市)
- 9月 病院立ち入り検査説明会 (久留米市)
- 9月 第64回西日本肢体不自由児施設運営研究会 (福岡市)
- 10月 全国重症心身障害児者施設職員研修会 (大阪市)
- 11月 ノロウイルス食中毒予防講習会 (久留米市)

(4) 衛生管理

- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入（冷蔵品は表面温度記入、冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入）
- ② 手洗い液による手洗いとウェルパスによる消毒の励行
- ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入
- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
- ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルコール、バリアス1（食品添加物除菌剤）使用
- ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
- ⑧ 調理室の温度・湿度記入
- ⑨ 検収室の温度記入
- ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
- ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
- ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定（毎日）  
業者による管理（毎月）
- ⑬ 細菌検査（検便）  
腸管出血性大腸菌（O-157 他）を含む病原腸内細菌検査（毎月）  
ノロウイルス抗原検査 10月、3月
- ⑭ 業者（トキワビル）によるネズミ・ゴキブリ駆除（毎月）

(5) 床工事（工事期間 7/5～7/13）

厨房の床下に水がたまり、床板が腐り、危険な状態だったため床の張替えを行う。7/5～7/15 まで耳納の食品加工室にて朝食を作り、昼食・夕食は外注弁当を取り、形態別に加工した。

(6) 給食委員会

ゆうかり学園

構成メンバー 所長、事務局長、看護部長、薬剤師  
看護課、育成課、訓練課、給食部より代表者  
園生代表者（ともだち寮2名、なかよし寮2名）

開催回数 月1回

耳納学園

構成メンバー 利用者様28名、生活課2名、栄養士

開催回数 月1回

千歳療護園

構成メンバー 利用者様4名、総務課、生活支援課、  
訓練支援課、栄養士

開催回数 2ヵ月に1回

内容

各施設で構成メンバーは違うが、毎月の誕生会のメニューを決めたり、行事食の希望を出してもらったりしている。また行事食は、行事終了後に感想を出してもらって次回の参考にしている。11月よりそれぞれの施設で行っていた誕生会のメニューを第2週の水曜日に統一して行うようにした。それぞれの施設で出してもらった希望メニューの中からその月の主のメニューを決定し、それ以外の希望メニューはなるべくその月の献立に入れるようにした。形態や食器等についても、様々な部署の方を交えて検討ができる良い機会なので、今後もしろいろな方面からの意見を参考に、より良い食事提供をしていきたい。

(7) まとめ

毎日の食事、季節や変化を感じていただけるように、その時期の食材を使用したメニューや話題になっているメニューを取り入れて、食事に変化をつけてきた。食形態については4月よりムース食、マッシュ食を取り入れ、より安

全な食事形態になるようにした。最初は限られた職員でムース食を作っていたが徐々にほかの人も作れるように勤務体制を見直してきた。まだ課題はあるが、今後も少しずつ安全で見た目よく楽しんでいただける食事を作っていけるように研鑽を積みたいと思っている。

誕生会のメニュー

2019 年度

	ゆうかり	千歳	耳納
4月	カツカレー	ギョーザ	オムライス
5月	チーズハンバーグ	キーマカレー	カツ丼
6月	オムカレー	オムカレー	オムカレー
7月	ステーキ	ステーキ	ステーキ
8月	カツカレー	カツ丼	寿司・茶碗蒸し
9月	うな丼	栗ご飯・唐揚げ	
10月	ビーフカレー	天井	ハムカツ丼
11月	ビビンバ丼		
12月	天井		
1月	焼肉丼		
2月	のり弁		
3月	オムライス		

## こもりぐま保育所

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。また、毎年恒例のバス遠足と、月1回の買い物は、子供達が楽しみにしている行事のひとつである。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密に心掛けている。

【 2019年度 利用児 】  
延べ 540 人 開所日数 233 日 1日平均 2.3 名

【 園外活動 (2019.11.28 木) 】  
JR 久留米駅  
～新幹線を見に行こう～

## 児童発達支援センター コアラ園

福祉型児童発達支援センターとして、3事業（①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援）に取り組む。

### ① 児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日に、「あそび教室」というかたちで、グループ療育及び個別療育を実施した。

内容として、日常生活動作（食事・排泄・衣類着脱等）の獲得及び、小集団での行動獲得を基本療育とし、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、プール、戸外あそびなどのカリキュラムを、個々の成長段階に合わせて提供した。遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切にし、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

集団に入れない園児に対しては、個別での療育対応を行い、少しずつ集団参加への意識を持たせるようにしていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

コアラ園登園に、年間で93名の契約利用児を受け入れ、1日平均で約15～20名が利用する。

2019年度の新たな取り組みとして、下記の2つの活動を取り入れた。

(1) 文化庁の伝統文化親子教室事業への参加として、生花教室を専門の先生（片岡清美氏）にお願いし、月1回の教室と、年2回の作品発表会（11月 田主丸町そよ風ホール、1月 耳納学園製品展示即売会会場 久留米ゆめタウン）を実施する。

(2) 耳納学園スタッフ指導による陶芸教室を実施する。

年長児に対する、就学に向けての机上での活動と、集中力の持続を自発的に促す取り組みとして効果を得ることが出来た。また、卒園記念品として各園児へお渡しする。

年間行事としては、

園内行事： 母親講座（9/18(水)研修室にて30名参加 講師：心理療育部 姫野参与）  
卒園式（3/20(水) 午前の部・午後の部）左記実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止となる。通常療育のカリキュラムで卒園を祝う会を実施し、卒園証書・記念品等をお渡しする。

避難訓練を月1回実施し（10月は消防署員立会い）、避難誘導等の訓練を園児、保護者と共に体験した。

園外行事： ゆうかり学園盆踊り花火大会（7/25(木)久留米市地方卸売市場田主丸流通センター・県緑化センターにて 園児48名と保護者兄弟参加）

ゆうかり学園運動会（10/19(土)東部運動公園にて）※雨天中止となり、交流ホールにて室内運動会を実施する予定でしたが、空調関係の故障により中止となる。

その他行事として、

就学を迎える園児の保護者に対し、特別支援学校（3校）、特別支援学級（30校）の見学案内を行うとともに、並行通園をしている保育園、幼稚園への情報提供書作成や園内見学等の受け入れも行った。

地域支援として、

地域の依頼により、久留米市、うきは市、朝倉市へスタッフ2名を派遣し、保育療育支援及び、相談支援業務を行った。（年間合計106回の支援）

## ② 放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日、15時～18時の時間帯で就学児を受け入れる。

田主丸特別支援学校の生徒5名（高校生3名、中学生1名、小学生1名）

計5名が年間で定期利用する。

## ③ 保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、年間で5名の利用あり。

久留米市南薫小学校 1名 4回訪問

朝倉市宮野幼稚園 1名 6回訪問

久留米市高良内保育園 1名 4回訪問

久留米市山本小学校 1名 3回訪問

久留米特別支援学校 1名 1回訪問

## <知能検査・発達検査>

発達検査	0
知能検査	11

上記の様に、必要に応じて知能検査（発達検査）を行い、対象児の課題等を見つけ出すと共に、今後の療育方針を決定する上での参考資料としていった。

また、就学を迎える年長児への情報提供や、特別児童扶養手当の申請及び更新

の為の検査として実施した。

その他、コアラ園卒園児や外来利用児（リハ利用児）に対してのサポートとしても実施した。（知能検査 18 名・発達検査 1 名）

<学校見学案内>

	期 日	学校名	参加保護者数・園児
1	6/4・9/10	小郡特別支援学校	5・2
2	6/5	久留米市大橋小学校	1
3	6/7	うきは市御幸小学校	1
4	6/12	久留米特別支援学校	8
5	6/14	田主丸特別支援学校	1
6	6/17	久留米市善導寺小学校	1
7	6/19	久留米市西国分小学校	4
8	6/21	久留米市弓削小学校	1
9	6/21	久留米市水分小学校	1
10	6/24	うきは市千年小学校	3
11	6/25	久留米市竹野小学校	1
12	6/26	朝倉市甘木小学校	2
13	6/28	うきは市山春小学校	3
14	7/1	久留米市山川小学校	1
15	7/1	久留米市合川小学校	1
16	7/2	久留米市高良内小学校	1
17	7/2	久留米市青峰小学校	1
18	7/3	朝倉市三奈木小学校	1
19	7/4	久留米市田主丸小学校	1
20	7/5	朝倉市大福小学校	1
21	7/8	久留米市金丸小学校	4
22	7/8	久留米市南薫小学校	2
23	7/9	久留米市御井小学校	1
24	7/10	朝倉市馬田小学校	1
25	7/10	朝倉市朝倉東小学校	2
26	7/11	朝倉市東小田小学校	1
27	7/16	朝倉市立石小学校	1
28	7/17	うきは市福富小学校	2
29	7/17	久留米市水縄小学校	1
30	9/3	うきは市吉井小学校	1
31	9/17	福岡市長尾小学校	1
32	9/24	朝倉市杷木小学校	1
33	9/27	久留米市南小学校	1

<通園児診断名>

診 断 名	該 当 児
構音障害	62
発達性協調運動障害	61
言語発達遅滞	53
自閉症スペクトラム障害	36
精神運動発達遅滞	17
運動発達遅滞	10
自閉症	9
摂食機能障害	1
注意欠陥多動性障害	2
知的障害	9
多動症	9
筋力低下	4
細菌性髄膜炎後遺症	1
未熟児網膜症	3
筋緊張低下症	1
歩行障害	4
契約児 93 名（診断名複数該当あり）	

<出張関係>

出張名	出張者	期 日	会 場
令和元年度久留米市 集団指導	山元 照弘	R1. 6/11	久留米シティプラザ 大会議室
令和元年度第2回社会福祉法人 経営者セミナー	久恒 章	R1. 8/8	ANA クラウンプラザ ホテル福岡
幼児通園療育職員講習会	早川 共見	R2. 1/27～1/31	心身障害児総合医療 療育センター（東京）



## 相談支援事業所 夢の紀

### 〈概況〉

夢の紀は、当法人内全施設のほぼ全員の入所者に対する計画相談を始め、久留米市、朝倉市、うきは市等に在住の障害児（者）の計画相談を行った。本年度の実績は下表の通りである。

### 〈計画相談契約件数〉

サービス等利用計画・障害児計画相談担当総件数		344 件
内 訳	障害児計画相談	92 件
	サービス等利用計画（在宅）	37 件
	サービス等利用計画（当法人施設入所者）	215 件

### 〈計画相談作成件数〉

新規相談	27 件（児童 22 件 者 5 件）
障害児支援利用計画・サービス等利用計画作成件数	182 件（児童 106 件 者 76 件）
継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援作成件数	359 件（児童 89 件 者 270 件）
サービス提供時モニタリング加算、退院加算、サービス担当者会議加算等	8 件
医療ケア児、強度行動障害体制換算	1,082 件

●本年度、ケースの抱える複雑な課題等により法人内外の関連事業所や医療機関、公的機関との連携・調整等に特に多くの時間を費やした特徴的な事例を、以下に挙げる。

- ・医療機関から在宅に戻られる医療ケア者の退院支援(1 件)
- ・入所施設から在宅生活への移行支援(1 件)
- ・在宅生活から医療機関への入院支援(1 件)
- ・障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行支援(1 件)
- ・久留米市の豪雨被害による短期間の入所対応とその後の在宅移行支援(1 件：ゆかり医療療育センター1 名)
- ・市外への転居に伴う市町村への連絡、相談支援事業所との連携、情報交換等(4 件：北九州市、武豊町、大刀洗町、東峰村)

●本年度の計画相談業務に関する考察を以下に挙げる。

- ・基本相談支援のみで経過している事例が 10 件あり、時間は費やすがサービス利用につながらないため計上できない。

- ・市町村によってモニタリング回数の制限があるため、不安が特に強いご家族に対する支援をモニタリングとして計上できない。
- ・朝倉市、うきは市からの計画対応(児童通所支援が主)のために、所属地域である久留米市の計画対応が難しい。
- ・在宅利用者様で療養介護施設の短期入所が施設都合で利用できなくなる場合の在宅サービス調整が煩雑である。

#### <基幹相談支援センターとの連携>

東部基幹相談支援センターから依頼(4件)を受け、福祉サービスの必要な対象者に、計画相談での対応を行った。また、すでに計画相談に入っている困難事例の計画相談において東部基幹相談支援センターと連携して支援を行った。

#### <関連事業所との連携>

- ・当法人施設：家族面談や認定調査に同席し、情報収集やモニタリングを行った  
また、入所検討会議へ参加し情報の共有を行った。
- ・虐待のリスクを抱える家庭への支援を公的機関、学校、病院、関係事業所等と連携を持って行った。

(相談業務における連携機関)

#### ○公的機関

- ・久留米児童相談所
- ・福祉課(久留米市、うきは市、朝倉市、他、施設入所給付市町村)
- ・久留米市こども子育てサポートセンター
- ・久留米市学校教育課(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)
- ・久留米市生活支援課
- ・久留米市地域福祉課
- ・久留米市社会福祉協議会
- ・うきは市子育て支援課
- ・朝倉市子ども未来課

#### ○保育所・学校関係

- ・保育園(千草、若葉、千年、三奈木)
- ・特別支援学校(久留米、田主丸、小郡、久留米聴覚)
- ・小学校(善導寺、宮の陣、山川、水縄、田主丸、竹野、柴刈、高良内、吉井、三輪、金川、三奈木、東峰学園)
- ・中学校(田主丸、宮の陣)
- ・高等学校(浮羽究真館高校)

- 医療機関（久留米大学病院、聖マリア病院、田主丸中央病院、久留米総合病院、のぞえ総合診療病院、倉田内科小児科医院、むたほとめきクリニック、耳納クリニック、聖ルチア病院、久留米リハビリテーション病院、筑後吉井こころホスピタル、本間病院、嶋田病院、姉川脳神経外科、姫野病院）
- 児童発達支援（ひばり園、かいじゅうの森、おひさま、るんるん、いきいきハッピーステップ津福）
- 放課後等デイサービス（ころころ、和歩わく、アクア、おひさま、るんるん、すまいる、クレア、芽愛、にじ、COCORO、スイングキッズ、こどもプラス、あっぷぷ、いきいきハッピーステップ津福、かぶとむしクラブみのう、かぶとむしクラブたかとり、さるくるめ、愛の家あさくら館、ヒカレ、第六野の花、ういずあっぷる浮羽校、かぶとむしクラブしらかべ、ハッピースペース、きぼうの森、ミルキーウェイ小郡、きらきら、菊池園放課後デイサービス）
- 保育所等訪問支援（Switch）
- 生活介護（一麦寮、ちとせ園、和歩わく、どんぐり、あかりデイサービス、若葉、愛らんど、浮羽学園、希望ヶ丘、陽だまりの里、シンフォニア、赤坂園、菊池園）
- 就労移行支援（あゆむ、Join、みどりの園）
- 就労継続支援（ほうれんそう、わくワークステーション千歳、Symbi、レガート、みどりの園、荒木学園、ステップ、ごろりんハウス、プロジェクト-T、だいちに水、天心園、ライフステージ、みんなの館）
- 療養介護（聖ヨゼフ園、柳川療育センター、久山療育園、若楠療育園、東佐賀病院）
- 居宅支援（田主丸社協、ひまわり、つばさ、千歳、アップル久留米、えがお、ドナセナ、生協、ライフケアステーション、ニチイケアセンター、グリーンケアステーション、涼風、心にスマイル、アップル小郡、朝倉医師会、あいの手）
- グループホーム（悠光会、浮羽学園、筑後吉井こころホスピタル、天心園、ライフステージ）
- 自立訓練（明蓬館）
- 訪問入浴（アップル久留米、くましろ）
- 短期入所・日中一時（和歩わく、のびのび、ASOBIVA、小郡学園、希望ヶ丘）
- 訪問看護（田主丸、あいず、デューン、ルナ、子守柿、ひとつ星、アップル小郡、朝倉医師会、甘木中央、ひばり、アソシオール）
- デイケア（筑後吉井こころホスピタル）
- 地域活動支援センターⅢ型（さくらんぼ）
- 就業・生活支援センター（ぽるて）

○フリースクール、フリースペース（未来学舎、四つ葉）

<自立支援協議会への参加>

- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会重心分科会に所属し、副部会長としての責務を行った。
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会相談部会委員（相談ねっと）に所属し、会合へ参加していく中で、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課、事務局と連携して行った。
- ・うきは市地域障害者協議会計画相談部会に所属し、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課、事務局と連携して行った。

<相談援助実習の受け入れ>

8月19日～9月20日 久留米大学 文学部社会福祉学科 2名(男女各1名)

<出張>

- ・ 6月18日 福岡県 障害者虐待防止・権利擁護研修(従事者向け)…古賀剛
- ・ 9月12日 難病研修会…古賀瑠美
- ・ 9月18日 介護職員初任者研修(講師として)…古賀剛、古賀瑠美
- ・ 10月18日 八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修…古賀剛
- ・ 10月24日 福岡県 障害者虐待防止・権利擁護研修(管理者・マネージャーコース)…古賀剛
- ・ 11月6,7,20,21日 強度行動障害支援者養成研修…吉田修平
- ・ 12月5,6日 九州地区障がい者相談支援事業所合同研修会(熊本)…古賀剛
- ・ 2月18,19日 地域生活支援推進研究会議(千葉)…古賀剛

(その他の会合出席等)

- 久留米市相談支援事業所連絡会(久留米市相談ネット)…10回
- 久留米市地域生活協議会(施策推進部会、重心部会)…3回
- 久留米市重心児者地域生活支援事業(医療ケア児者短期入所推進連携会議)…4回
- 久留米市障害者基幹相談支援センター(東部地区実践研修回)…2回
- うきは市地域障害者協議会(計画相談部会等含む)…3回
- 社会福祉士会 障がい者虐待防止研修(打合せ会議等含む)…6回
- 相談支援ネットワーク会議(療養介護事業所相談支援連絡会)…3回
- 田主丸特別支援学校連絡調整会議・研修会・相談会…3回

## 耳 納 学 園

### 《概況》

テレビ中継で、新しい元号が「令和」と発表された。丁度利用者様と一緒にテレビを見ていて皆が令和という元号を口々に言っておられた。いよいよ新しい令和の時代がスタートしたのだという思いで作業に就かれていた。

今年も、8月27日に九州北部地方に、秋雨前線が停滞し集中豪雨のため洪水が発生した。特に佐賀県では、住民が一時孤立したというニュースが流れた。その為、佐賀県出身（武雄市、白石町、唐津市）の利用者様のご自宅へ電話し、被害状況や様子などをうかがった。武雄市の保護者様は、ちょうど避難所から家に帰って来られたばかりで、家が高台にあり浸水などの被害には遭わなかったと話された。その他の保護者様も、大雨にはびっくりしたが、被害には遭っていないとはなされた。保護者会会長へその事を報告すると、安堵されておられた。

作業面においては、毎年恒例の「ゆめタウンくるめ展示即売会」を、1月11日（土）～1月13日（月）までの3日間で開催した。ゆうかり学園の行事として、多くの職員の協力をいただきながら、利用者様が、まごころをこめて作った製品の販売ができる事に感謝申し上げたい。今回、100万円弱の売り上げがあったが、売上高は減少傾向にあり売り上げを伸ばすよう頑張っていきたい。

生活面においては、利用者様との個別面談において、外出支援を希望される利用者様が多かった。休日には、個人で近くのスーパーなどへ外出されるのだが、普段行く機会のない所や、職員と一緒に付き添って買い物のアドバイスをしてもらおうような、体験外出を春と秋に実施している。外出した時の休憩時間（コーヒータイム）は、利用者様としっかり話ができるのも、職員の楽しみのひとつである。

健康面では、昨年度もインフルエンザA型に数名の利用者様が罹患された。今年も展示即売会の頃に感染症が発生しないか、心配していたが、利用者様へ手洗い・うがい・食事の重要性を看護師、栄養士より話をしてもらう事で、感染症の発生はなかった。しかし、2月末頃より新型コロナウイルス感染拡大防止のため、国が打ち出した対策を基に、保護者様に面会や外泊の自粛を要請している。又、同様に利用者様へも当分の間外出、外泊（病院受診や緊急の場合を除く）の自粛をお願いしている。世界規模で感染拡大が広がる中、福岡県でも数十名の感染者がおり、今後、予断をゆるさない状況である。いつ終息するかわからない、先の見えない事態に利用者様も心配されておられる。今の対応を継続するほかはなく、我慢の時である。

次年度も安全・安心、そして快適な施設づくりに向けて取り組んでいきたい。

1) 本年度の各事業別利用状況

《施設入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 9,871 名、充足率 79.3%、1 日平均利用者数 26.9 名

《就労継続支援 B 型》定員 40 名（通所 6 名含む）

年間作業参加実績延べ利用者数 6,458 名、定員から見た充足率 67.8%、1 日平均作業参加実績利用者数 27.1 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

地域別	入園状況		前年度末		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1								1
久留米市	4	3							4	3
柳川市		4								4
朝倉市	2	1							2	1
大川市		1								1
小郡市		1								1
うきは市	1	1							1	1
佐賀白石町		1								1
新宮町		1								1
八女市	1	1							1	1
みやま市		1								1
壱岐市			1						1	
東峰村	1								1	
唐津市	1								1	
武雄市	1								1	
計	11	16	1	0	0	0			12	16

【就労支援課】

陶芸部門では、主に売れ筋商品を中心に生産活動を行った。しかしながら、制作指導を含め、個別または全体に支援不足もあり、商品の在庫数の確保につなげることが出来なかった。

工芸部門では、作業環境面の工夫を行う事で、利用者の身体的負担の軽減が見られ、意欲の向上も感じる事が出来た。また、新入所者1名が加入した。

食品加工部門では、引き続き「焼肉のたれ」の製造を行った。今年度は、「絆・まごころ農園」で栽培した「にんにく」の使用を開始することで、商品力が増加した。同時に「黒にんにく」の生産も行い、法人内で販売も実施した。

農作物部門では、「絆・まごころ農園」で生産した「にんにく」は豊作だった為、市場にも出荷、「米」、「季節の野菜」は法人内に限り販売を行った。尚、にんにく収穫後の管理には課題が残った。

販売に関しては、出向、委託、受託(パン・クッキー類)をはじめ、各種イベント等にも積極的に参加した。「ゆめタウン久留米展示即売会」は三日間実施した。今回は、ゆめタウン久留米のホームページにもポスターの掲載をしていただく等の広報の充実による集客効果の向上も期待されたが、近年の売上げ下降の傾向には逆らえず、今回も前回より2割の減となった。また、展示会直後の開催であったが、搬出等を中心に法人職員による協力もあり、五日間にわたる「まごころ製品大規模販売会(福岡三越)」にも参加する事ができた。更に、受託販売(パン・クッキー類)では、今年度は「夢工房」のスタッフ、利用者も参加して試食等を行いながら実施した。

今年度は、仕入れ価格の高騰や、長年据え置かれた学園生産製品の価格を見直し、11月より改定を行った。その後の出向販売や、委託販売における動向で、消費者には受け入れて頂けているような手ごたえを感じている。

お客様の手に渡り、そして使用して頂く過程を考える等、自らが携わった商品に愛着を持つことが出来るような支援を行っていきたい。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表(2)の通りである。

月	売上金額	工賃支給額
4	538,345	279,615
5	1,068,622	269,469
6	748,112	270,557
7	711,131	290,958
8	403,340	291,139
9	446,139	291,332
10	565,081	271,384
11	608,902	280,344
12	612,394	281,042
1	1,318,290	421,068
2	275,825	290,658
3	547,474	288,094
計	7,843,655	3,525,660

※ 本年度の工賃支給率は、44.9%

### 【生活支援課】

生活面においては、個別に利用者様と面談を実施して個別支援計画を作成している。利用者様は、休日を利用して近隣のスーパーなどで買い物をされているが、普段行く機会のない所や、職員と一緒に買い物に付き添ってアドバイスをしたりする体験外出の要望が多かったです。今回も春と秋に、「ゆめタウンくるめ」「T ジョイでの映画鑑賞」「菊池園へOBとの面会」「筑紫野イオンモール」「佐賀県陶磁器会館」「西鉄バス乗車体験」「樋並木の写真撮影」などをおこなった。日頃は仕事中心で、生活担当職員とあまり話をする時間がないので、このような体験外出の休憩時間(コーヒータイム)に利用者様と職員とがしっかり話ができることも、楽しみの一つである。

日常生活においては、2名の女子利用者様へ入浴介助支援を実施している。利用者様へ、もっと快適な入浴支援が出来るように、女子職員の提案で入浴用ストレッチャーを購入してもらう要望が出た。利用者様へもその件を報告すると、保護者会へ相談してみてもとの意見がだされ、7月7日の保護者会総会にて、ストレッチャーの購入を議題に諮ってもらい、満場一致で賛成をいただき8月末に納品してもらった。ストレッチャーに囲いをセットすると浴槽にもなるすぐれものである。冬場にはお湯につかり、あたたまってあがれるので、利用者様に好評である。

これからも、利用者様のおもいや要望などをしっかりくみとり、快適な生活を送



れるように取り組んで行きたい。

1) 本年度の在園期間別人員数及び平均在園期間は、別表(3)の通りである。

別表(3) 入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	計	平均
男	1	0	2	0	3	6	12	23年8ヶ月
女	0	0	2	1	3	10	16	27年10ヶ月
計	1	0	4	1	6	16	28	25年9ヶ月

2) 本年度の年齢区分別人員数及び平均年齢は、別表(4)の通りである。

別表(4) 年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	計	平均
男	0	0	3	2	7	12	52歳3月
女	0	0	0	3	13	16	57歳7ヵ月
計	0	0	3	5	20	28	54歳10ヵ月

3) 本年度の主な実施事項は、別表(5)の通りである。

別表(5) 主な実施事項

月	日	行事	月	日	行事
4	9	体験外出(買い物)	11	12	体験外出(買い物)
4	16	体験外出(バス体験)	11	14	体験外出(菊池園面会)
4	18	体験外出(買い物)	11	19	体験外出(買い物)
4	25	開園記念行事	11	26	体験外出(買い物)
5	2	第57回身障者体育大会	12	2	体験外出(写真撮影)
5	16	体験外出(八女市散策)	12	6	体験外出(映画鑑賞)
5	22	体験外出(映画鑑賞)	12	10	体験外出(買い物)
6	6	体験外出(買い物)	12	18	忘年会
6	20	夕食会「そうめん他」	12	19	体験外出(買い物)
7	4	体験外出(映画鑑賞)	12	26	1日レク「もちつき」
9	20	体験外出(有田町散策)	1	23	1日レク「喫茶店」

9	26	夕食会「餃子他」	2	20	夕食会「ちゃんこ鍋他」
10	19	運動会（雨天の為中止）	3	12	1日レク「ラーメン」
11	7	体験外出（買い物）			

#### 4) 本年度実習生の受け入れ

介護等体験実習	(久留米工業大学)	1名
介護等体験実習	(福岡教育大学)	1名
介護等体験実習	(福岡教育大学)	1名
介護等体験実習	(福岡女子短期大学)	1名
介護等体験実習	(久留米大学)	1名
介護等体験実習	(久留米大学)	1名
介護等体験実習	(九州産業大学)	1名
介護等体験実習	(福岡教育大学)	1名
保育実習Ⅰ	(九州大谷短期大学)	2名

\*新型コロナウイルス感染拡大対応の為中止する

#### 【看護課】

今年度は、1名の利用者様が、頸椎症性脊髄症の診断で脊椎後方拡大術を受け、術後のリハビリテーションまでの間、他院への入院が約半年続いた。介助を多く必要とする状態での退院ではあったが、徐々に元の生活に戻れるように努力している。1名の利用者様は、両眼白内障の診断で眼内レンズ挿入術を受け、術後の受診を継続している。

感染症罹患者は無く、歯科検診や年2回の健康診断は、全利用者様対象に実施できた。加齢に伴う様々な症状や疾患への対応が重要であると考え、残存機能を考慮した生活支援や生活への自信と意欲を高めるための援助、また、個々を尊重した看護に努めている。

1) 月別受診人員数は別表（6）の通りである。

別表（6）月別受診人員

科別 \ 月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬内服	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
臨時薬内服	21	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22	259
循環器科	2	0	2	2	0	4	0	0	4	0	2	4	20
内分泌科	3	0	2	2	2	1	2	1	2	1	2	1	19
脳神経科	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	18
消化器科	2	0	1	1	2	2	2	0	0	0	1	1	12
一般内科	2	11	1	3	0	2	3	6	4	3	2	3	40
整形・外科	2	2	6	4	5	2	3	8	10	9	2	3	56
耳鼻科	1	1	4	2	0	0	0	1	0	0	0	0	9
歯科	14	9	44	12	6	14	6	12	22	13	13	6	171
皮膚科	6	8	9	6	9	7	8	7	11	8	9	7	95
眼科	6	6	6	15	9	8	11	12	7	8	13	7	108
婦人科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
精神科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
入院	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	7
計	65	63	102	73	60	67	63	73	87	68	71	58	850

【2019 年度研修等出張記録】

期日（期間）	研 修 会 名 称	出張先	参加数
2019 4/9	福岡県身体障害者体育大会 説明会	春日市	1
5/7	県社協ストレスマネジメント研修	春日市	1
6/7	県社会就労センター協議会・セルフセンター 第1回施設長会	福岡市	1
6/27, 28	福岡県身障協施設長会・施設長、職員研修会	北九州市	1
7/3	ライフレスキュー定例会	久留米市	1
7/10	特定処遇改善加算の概要と取得手続セミナー	福岡市	1
8/8	経営者セミナー	福岡市	1
8/19	会計担当者セミナー	春日市	1
8/23	労務管理研修	春日市	1
8/28	「まごころ製品」大規模販売会説明会	福岡市	1
9/18, 19, 20	九州身体障害者施設研究大会	大分市	1
9/24	災害対策セミナー	福岡市	1
10/10	「まごころ製品」説明会	福岡市	2
10/30, 11/1	九州社会就労センターセルフ研究大会	宮崎市	2
10/30	福岡県社会福祉大会	春日市	1
11/21	応研年末調整セミナー	福岡市	1
12/11	「まごころ製品」大規模販売会打合せ会	福岡市	1
12/13	相談支援従事者現任者研修（更新）	福岡市	2
2020 1/17	福祉サービス苦情解決従事者研修	春日市	1
1/30	経営セミナー	福岡市	1
2/26, 27	相談支援従事者現任者研修（更新）	福岡市	1

## 千歳療護園

### 《概況》

9月下旬、九州に上陸した台風17号の影響で屋上に設置している11台の室外機が強風で倒れ破損した。修理に時間を要し11月21日に復旧、本格的な寒さの前にエアコンが使用できたことに利用者様も安心されている。ここ数年、雨や強風による自然災害が発生しており、今後もいち早く情報収集を行い被害が出ないように安全対策に心掛けて行きたい。

8月に第43回全国身体障害者施設協議会研究大会が北海道で開催され、千歳療護園は、「誤嚥性肺炎を防ぐ取り組み～多職種連携～」と題し研究発表を行った。利用者様の高齢化による咀嚼、嚥下機能低下のため、誤嚥性肺炎で長期入院を余儀なくされる利用者様が増えており、この先も快適な園生活を過ごして頂きたいとの思いから『誤嚥性肺炎ゼロ』を目標とし、医師・歯科衛生士・言語聴覚士・管理栄養士など各専門職種と多職種連携を図った。口腔ケアに吸引ブラシを使用するなど、この取り組みを始めて2年近くになるが、現在までに誤嚥性肺炎で入院された方はおらず、誤嚥予防に繋がっていると感じている。

本年度も国土交通省在宅生活支援環境整備事業(自動車事故対策費補助金)の申請を行い1月30日、浴場・脱衣所に天井走行リフトを設置、同時に床走行リフトも導入した。以前の入浴介助では、抱えて移動する際は十分に注意をはらうも濡れた床で滑る可能性があることから利用者様、職員に不安を与えていた。現在は設置した天井走行リフトで安心安全な移乗が可能となり、利用者様がリラックスした快適な入浴時間を提供できている。また、床走行リフト使用により、今まで女性職員では出来なかった利用者様の移乗もスムーズに行えている。更に、リフト使用時は、利用者様と職員がコミュニケーションを取れる時間となっており、笑顔で接する場面が多くなっている。両リフトの使用は、職員の腰痛予防にもおおいに繋がっている。

本年度より毎年6台の3モーター電動ギャッジベッドを導入する計画を立てた。本年度は12月に6台導入、昇降機能によるおむつ交換や処置時の職員の腰の負担軽減、また緊急時にはキャスター使用により直接居室からスムーズに外へ避難できるようになった。利用者様からもベッド上での姿勢が楽になったなど好評を得ている。今後も利用者様の生活環境整備を図り、予測される事態に対し早急に対応できるよう事前に準備し、園生活での安全と安心を提供できるよう、より一層のサービス向上を目指し支援して行きたい。

<千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

年間延べ利用者数 14,402 名 充足率 98.8%

【生活介護：定員 50 名】（通所 10 名含む）

年間延べ利用者数 11,688 名 充足率 89.2%

【短期入所：定員 2 名】

年間延べ利用者数 38 名

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者について】

4 名の利用者様が延べ 41 日間の入院、また外泊日数は延べ 132 日間となっており、入院日数や外泊日数を除く実利用者数は 14,402 名で 98.8%の充足率であった。尚、令和 2 年 3 月 31 日現在の入院者数は 2 名である。

2. 本年度の地域別入退園状況は別表（1）の通りである。

別表（1）本年度の地域別入退園状況

生活部

(1) 生活援助課

(パートナー係)

本年度は、個別支援計画書の内容に合わせた支援を行い、個別支援活動の充実、希望外出や園が計画した外出の機会を設けるといったことを重点に活動計画を立てるようにした。また、千歳療護園開園 40 周年という記念すべき年なので開催規模を拡大し、地域支援棟での記念式典や外注による食事会の開催を計画、実行をしてきた。

個別支援活動の充実については、担当職員が利用者様に係われる時間を約 2 時間設け、「居室の整理整頓をしてほしい」「散歩に行きたい」などのニーズに合わせた支援が出来るよう業務を組み込むようにした。活動時間は週 4 回（火水木金）とし、2～3 名を担当する職員が月に必ず 1 回は活動できるよう心掛けている。活動の記録

に関しては、昨年と同様、誰もが閲覧できるようパソコン入力とし、パソコン以外でも閲覧が出来るよう記録を印刷し、ファイルに綴じて過去の記録を残すようにしている。

希望外出や園計画の外出に関しては、「好きな歌手のコンサートへ行きたい」「遠方にいる友人に会いたい」といった希望が出たのでチケットの手配や支払い、付き添い職員の選出、駐車場の確保など現場までに行くための様々な準備を行っている。その他では、ランチ外出を計画し、飲食店での食事や買い物が出来るように約3時間の外出計画を立てて実行している。外出先としては、ゆめタウン久留米、ジョイフル善道寺、ゆめマート吉井など当日参加される利用者様の希望に合わせて計画を立てている。短時間ではあるが、飲食店でのメニューを見て食べたいものを選ぶ、商品を見て購入するといった、普段できないことを外出先で行えるので楽しんで参加されているが、食事形態が普通食（有形）の方中心の参加となるため、工夫が必要な食事形態の方は、食事を含む外出メンバーに組み込むことは難しい状況である。

しかし、ランチ外出に参加できない利用者様を中心にドライブ外出を計画し、近隣の景色を観て楽しんで頂けるように準備を行った。また、他部署の看護師や事務職、理学療法士に協力要請し、職員も一緒に楽しめる計画を立てるように心掛けている。

その他、インターネットを利用した買物の仲介と支払い、受給者証、確定申告など行政への手続き代行業務、保護者への連絡書や小遣い帳複写書類の作成などの業務を行っている。

今後は、もっと外出機会を増やせるような時間の設け方を考え、新しい外出先の開拓などより充実した園生活を送って頂けるよう計画を考えたいと思う。

☆ 週生活表は別表（2）、年間実施行事は別表（3）の通りである。

（サポート係）

2019年度の千歳療護園は生活介護50名（現在の入所実人数40名・通所10名）短期入所2名で構成されており、死亡退園（1名）新規入所（1名）であった。

利用者様の健康面に於いては、誤嚥性肺炎を防ぐ取り組みとして、口腔体操と吸引ブラシによる口腔ケアを実施している。

夜間巡回を強化（息遣いの確認・確認表）し様子観察のできる環境の設置・緊急事態に対応出来るよう職員の意識向上に努めた。特に各疾患（心肺停止・転倒・骨折・出血・カテーテル抜去、破損時の対応・チアノーゼ・嘔吐・熱発）のマニュアルを作成し、夜勤申し送り時に緊急時のシミュレーションを行っている。また、利用者様の体調の変化についても看護課との連携を図っている。

また、新型コロナウイルス感染防止対策として、面会・外出・外泊を規制し、園内での手指消毒の徹底やドアノブ等の消毒は行っている。今期は、インフルエンザウイルスの感染者は出ていない。

アクシデント報告については、14件と多く発生した。中でも転倒事故、外傷事故、カテーテルの抜去が多く発生している。今後も介助方法について意識向上と改善に心掛ける必要がある。

利用者様の生活面に於いては、園での行事(開園記念日・運動会・餅つき・忘年会等)の他に、買い物・ランチ外出・近隣へのコンビニ(セブンイレブン)までの買い物を兼ねた散歩を行っている。また、QC活動の一環としてクラブ活動をより充実させようということで、工作(鏡餅作り、写真立て作り)お菓子作り(綿菓子、チョコバナナ)ドライブ外出(発心公園へ桜の花見)を行い、利用者様から喜びの声を多くいただいた。

希望外出にて野球観戦やサーカス等、一人ひとりに合った喜ばれる支援を考慮して行い、個別支援活動で計画した園内散歩・カラオケ・工作・足湯なども日替わりで実行している。また、グループ毎に気兼ねなく楽しんで頂けるよう、3Dの映像を体験できるVR(ゲーム機器)を購入し、日中活動の幅が広がった。

利用者様に快適な生活を提供するための対策として、9月に遮光カーテンの取り付け(西陽対策)、12月に電動ギャッジベッド6台、1月には天井走行リフトを導入した。これは職員の身体への負担が軽減されると共に、利用者様の安全できる生活の提供にも繋がっている。

来年度は学園のテーマである「ONE TEAM」を基に、同じ目標を持って、それぞれの部署と連携し一つになるという意識を持ちつつ、利用者の方、職員を尊重、尊敬の念を持って仕事をする。このテーマと行動指針を常に考えながら業務にあたって行きたい。

## (2) 訓練援助課

千歳療護園では、男性24名、女性16名、計40名の利用者様に対し、理学療法士1名、訓練支援員1名(兼任)で、利用者様一人あたり1回40分の個別訓練を週1~2回実施した。

訓練の内容は、利用者様の高齢化に伴い、残存機能の維持、体力・筋力の維持、関節可動域の維持を目的に行った。具体的には、個別の能力に合わせた動作運動、筋力維持運動や関節可動域維持運動を行った。筋緊張の強い利用者様には、ストレッチやマッサージにてリラクゼーションを行い筋緊張の緩和をはかった。身体の痛み



を訴える利用者様には、ホットパックやマッサージを行い痛みの軽減・緩和に努めた。また、上肢の巧緻動作維持や座位保持の維持を目的に、パズルやトランプ、スキルスクリーン等の作製を取り入れた。

個別にかかわることで利用者様の話に傾聴し、気分転換に外に散歩に出かける等、ストレスの解消や情緒の安定をはかり、精神面から起きる機能低下防止にも心掛けた。

補装具全般の交付・修理申請手続きを行い、車椅子・電動車椅子・座位保持装置・下肢装具等の作製・修理にも携わっている。令和元年度では、車椅子の交付申請 7 件、修理申請 3 件、補装具の交付申請 2 件、修理申請 1 件、福祉用品の購入 4 件の手続きを行った。

#### (訓練内容)

- 関節可動域運動
- 基本動作運動(寝返り・起き上がり・立ち上がり・立位保持・歩行等)
- 姿勢保持運動(座位バランス・立位バランス等)
- 日常生活動作運動(車椅子駆動・移乗動作等)
- 体力・筋力維持運動(腹筋・四つ這い・立ちかがみ等)
- 巧緻動作運動(パズル・ひも通し・スキルスクリーン等)
- リラクセーション(マッサージ・ホットパック等)

### (3) 相談支援課

#### 《概況》

2019 年 4 月 1 日に千歳療護園は開園 40 周年を迎え節目の年になった。

利用者様の生活環境、職員の職場環境を整える一環として、福祉機器の電動ベッドや天井走行式リフト、床走行リフトの購入、設置にも取り組み、利用者様の安心、安全で快適な生活及び職員の介護負担の軽減にも繋がっている。

相談支援課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務(食事、入浴、排泄、移動等)での関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

さらに、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を継続し、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット等にも取り組んだ。

また、散歩等には最適な環境であるため、気分転換・ストレス解消・地域の多くの方との触れ合い等を目的に敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

年々利用者様の高齢化、重度化の前兆が生活全般の様子から伺えるようになった。身体機能の低下は、あくまでも利用者様の意思を尊重しつつ支援していきたい。また、急変時の対応についてもマニュアルを確認しつつ、日々の観察を怠る事なく、他の部署と連携を取りながら、利用者様が快適な生活を過ごせるように支援したい。

(支援内容)

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④ポジショニング（リラクセーション、慢性痛の軽減、QOLの拡大等）
- ⑤前頭前野活性化法（読み聞かせ、公文カード、ドリル等）
- ⑥介護全般
- ⑦メンタルヘルス（ドライブ外出、カウンセリング）
- ⑧環境整備、その他

#### (4)看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、医療ニーズを抱える方も増加傾向であり、協力病院との連携が必要不可欠な状況です。園内でも、常日頃から多職種との協働・連携を取り、情報共有を行い、医療的ケアを安全・安心に提供できるように努めていきます。

《2019年度》

① 委託入院	聖マリア病院	3件
② 医療ケア	膀胱瘻	2名
	経管栄養（胃瘻）	1名
	ストーマ	2名
	留置カテーテル	1名
③ インフルエンザ予防接種		39名

## ④ 千歳療護園 年齢別入所者数

2020年3月31日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
利用者	1	2	4	21	7	5	40
(%)	2.5	5	10	52.5	17.5	12.5	100

## ⑤ 千歳療護園 病類別入所者数

2020年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	31	脳脊髄膜炎	1
頭部外傷後遺症	1	脳挫傷後遺症	2
精神遅滞（重度）	1	クモ膜下出血後遺症	1
進行性ミオクロームスτέんかん	1		
脳梗塞後遺症	1		
脳出血後遺症	1		

別表(1)

地域別入退園者状況表

2019年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1		1	
	上 陽 町							
	大 木 町							
	広 川 町	1			1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	荻 田 町							
	筑 前 町							
	福 智 町							
	小 計	2			2	1	1	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	2			2	1	1	
	北 九 州 市	2			2	2		
	大 牟 田 市	3		1	2	2		
	久 留 米 市	9	1		10	7	3	
	直 方 市							
	飯 塚 市							
	田 川 市	2			2		2	
	柳 川 市	4			4	2	2	退園(別施設へ入所)
	宗 像 市	1			1	1		
	八 女 市	2			2	1	1	
	筑 後 市							
	大 川 市	3			3	1	2	死亡退園
	小 郡 市							
	筑 紫 野 市	1			1	1		
	春 日 市	1			1		1	
	大 野 城 市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
	古 賀 市							
	う き は 市	4			4	1	3	
朝 倉 市	2			2	2			
み や ま 市	1			1	1			
福 津 市								
	小 計	38	1	1	38	23	15	
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
	小 計	0	0	0	0	0	0	
合 計		40	1	1	40	24	16	

別表 (2)

## 週 生 活 表

千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動 朝食						
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会 (月最終日曜日)
10:30	訓	訓	訓	訓	訓	【生花】	
11:00	練	練	練	練	練		
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性) 定期診察	入浴 (女性) 療育会議 外出	入浴 (男性) 外出 ちとせ会 職員懇談会	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓	訓	訓	訓	訓		
15:00	練	練	練	練	練		
16:00			暖和会				
16:20	※ 入浴は、千歳と第二千歳を1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き(自立者一部)、後片付け、排泄 着替え、自由時間						
19:00	歯磨き						
20:00	消 灯						
21:00							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○月 曜 日 コミュニケーション会、工作活動、カラオケ活動</li> <li>○火 曜 日 定期診察(男女月1回)、個別支援活動、ネイルボランティア(月1回)</li> <li>○水 曜 日 療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義)暖和会(第2週)、DVD視聴活動、個別支援活動 利用者買物(月2回)</li> <li>○木 曜 日 ちとせ会・職員懇談会(第2週)、個別支援活動、DVD視聴活動</li> <li>○金 曜 日 DVD視聴活動、個別支援活動</li> <li>○土 曜 日 生け花(第3週)</li> <li>○月 行 事 体重測定(第一日曜)、出張散髪(最終月曜日)利用者と園長懇談会(最終日曜日)</li> <li>○隔 月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)</li> </ul>						

## 別表 (3)

## 年間実施行事記録表

2019 年度

月	日	行事等	月	日	行事等
4	2	出張散髪	10	8	出張散髪
	14	千歳療護園 40 周年記念式典		10	ネイルボランティア
	20	生け花		12	生け花
	22	出張散髪		19	ゆうかり運動会
	23	ネイルボランティア		28	出張散髪
5	1	招待外出(サニックスラグビーユース)	11	31	希望外出(北九州市・あゆみの里)
	2	身障者スポーツ大会(博多の森)		5	出張散髪
	17	日産労連ミュージカル		7	ネイルボランティア
	18	生け花		9	生け花
	19	希望外出(ヤフオクドーム)		12	訪問理美容サービス
	23	ネイルボランティア		20	ランチ外出(ゆめタウン久留米)
	27	出張散髪		25	出張散髪 ランチ外出(ゆめタウン久留米)
6	1	生け花	12	26	ドライブ外出(田主丸町周辺)
	2	ちとせ祭		27	紅葉ドライブ
	11	出張散髪		3	出張散髪
	13	招待外出(ナイター野球観戦)		10	ネイルボランティア
7	2	出張散髪	12	12	浮羽消防署指導避難訓練・餅つき
	3	避難訓練 招待外出(ナイター野球観戦、天候不良で中止)		14	生け花
	13	生け花		16	出張散髪
	25	盆踊り花火大会		17	訪問理美容サービス
	29	出張散髪		18	忘年会
8	20	出張散髪	1	7	出張散髪
	22	ネイルボランティア		14	訪問理美容サービス
	24	生け花		16	ネイルボランティア
	26	出張散髪		18	生け花
	29	納涼祭		27	出張散髪
9	3	出張散髪・避難訓練	2	4	出張散髪
	6	招待外出(ナイター野球観戦)		10	ランチ外出(ジョイフル善道寺)
	20	招待外出(ナイター野球観戦) ランチ外出(ゆめタウン久留米)		12	招待外出(木下サーカス)
	21	生け花		17	出張散髪 ランチ外出(ゆめタウン久留米)
	25	ランチ外出(ゆめタウン久留米)		18	ネイルボランティア 訪問理美容サービス
	28	希望外出(そよ風ホール)		20	ランチ外出(ゆめタウン久留米)
	30	ランチ外出(ゆめタウン久留米)		20	ランチ外出(ゆめマート吉井)
				22	生け花
		3	26	花見ドライブ	
※3 月感染症予防の為、外部ボランティア中止					

参) 実習生受け入れ状況

\* 介護等体験実習(久留米工業大学)

介護実習(平岡介護福祉専門学校)

学校名	実習期間	人数	日数
久留米工業大学	6/24~6/28	1	5
平岡介護福祉専門学校	11/19~12/10	3	17

延べ人数 56名

別表(4)

## 日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	4	1	5
	一部介助	11	10	21
	全介助	9	5	14
起 坐	自 立	4	4	8
	一部介助	3	9	12
	全介助	17	3	20
立ち上がり	自 立	1	1	2
	一部介助	6	6	12
	全介助	17	9	26
排 泄	自 立	2	1	3
	一部介助	4	5	9
	全介助	18	10	28
更 衣	自 立	2	1	3
	一部介助	3	3	6
	全介助	19	12	31
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	5	1	6
	全介助	19	15	34
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	0	1	1
	全介助	23	15	38
寝返り	自 立	7	4	11
	一部介助	3	6	9
	全介助	14	6	20
車椅子使用	自 立	4	3	7
	一部介助	13	9	22
	全介助	7	4	11

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	6	5	11
		2回	6	7	13
		3回	4	1	5
		4回	5	1	6
		小計	21	14	35
	服 薬	1回	10	5	15
		2回	0	0	0
		3回	0	0	0
		小計	10	5	15
	体位変換	1回	2	2	4
		2回	1	0	1
		3回	1	0	1
		6回	0	0	0
小計		4	2	6	
おむつ使用	昼・夜	3	1	4	
	夜間のみ	2	4	6	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

## (5) 通所支援課

2020年3月31日現在の、支援センター利用契約者様は14名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	9名
うきは市	6名

今年度は、延べ 1,374名の方が利用され、1日平均5.6名の利用があった。内訳は下記の通りである。

久留米市	614名
うきは市	760名

延べ利用人数は前年と比較すると8名の増となった。長期の入院や体調不良、受診等で増減の波があった。

利用者様の状況として、東部基幹相談支援センター、夢の紀の情報提供もあり、新規の契約者が年間を通してあり平均で1日当たりの利用は5名～7名と安定してきた。また、特別支援学校の実習の受入れを継続し、卒業後の通所利用者を獲得している。現在、契約者様が15名で現在18歳から67歳(男性7名、女性8名)の方が利用している。また、65歳上の利用者様の介護保険移行にともない共生型事業として通所予防サービスの準備を行っている。

☆障害支援区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。

☆月別・市別利用者数表は、別表(B)の通りである。

活動においては、制作・創作活動(掲示物制作や季節の飾り物、習字など)や誕生会、四季外出、個別的機能訓練、なぞなぞクイズやトランプなどを実施した。

現在利用されている利用者様やご家族の希望として入浴が多く、入浴を午前と午後に分けるなどして、入浴を中心にドライブ外出や活動を行った。入浴も満足して頂き外出では、気分転換を図って喜んで頂いた。法人の各行事(夏祭り)にも積極的に参加頂いた。来年度契約予定のある利用者様もあり一日の利用人数が増えることが予想される。それに伴い入浴と活動の両立への検討が必要。

### 日中活動の支援内容

- 身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助
- 創作的活動、文化的活動、社会適応訓練(個別活動)





別表 (A) 2019 年度

障害程度区分表

通所支援課

年齢 \ 区分	2	3	4	5	6	計
19 歳以下			1		1	2
20～29				1	3	4
30～39						0
40～49		1	2	1	3	7
50～59						0
60～64				1		1
65 歳以上		1				1
計		2	3	3	7	15

主たる起因疾患別年齢表

病名 \ 年齢	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	計
	脳性麻痺	脳血管障害	脊髄損傷	頭部外傷	特定疾病	特定疾患	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	
(1) 19 歳以下	1								1	2
(2) 20～29	3								1	4
(3) 30～64	3		1					1	3	8
(4) 65 歳以上		1								1
計	7	1	1					1	5	15

別表 (B) 2019 年度 月別・市別利用者数表

通所支援課

月	利用日数	利用者数	1日平均
4	21	111	5.2
5	20	111	5.5
6	20	108	5.4
7	22	125	5.6
8	16	87	5.4
9	19	116	6.1
10	21	127	6
11	20	122	6.1
12	20	126	6.3
1	19	120	6.3
2	18	105	5.8
3	21	116	5.5
計	237	1,374	5.7

月	久留米市			うきは市			朝倉市		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
4	14	36	50	24	37	61	0	0	0
5	17	35	52	24	35	59	0	0	0
6	16	34	50	24	34	58	0	0	0
7	17	41	58	27	40	67	0	0	0
8	18	25	43	24	20	44	0	0	0
9	15	33	48	34	34	68	0	0	0
10	16	39	55	35	37	72	0	0	0
11	19	37	56	35	31	66	0	0	0
12	18	37	55	35	36	71	0	0	0
1	15	38	53	34	33	67	0	0	0
2	11	32	43	30	32	62	0	0	0
3	17	34	51	31	34	65	0	0	0
計	193	421	614	357	403	760	0	0	0

2019年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
4/7	長光園創立 35 周年式典記念式典	佐賀	1 名
4/16	社会福祉施設委員会	春日市	1 名
4/17	県南ありのまま舎表敬訪問	宮城	1 名
	福岡県身体障がい者体育大会引率者役員連絡会議	春日市	1 名
4/18～19	九州障害者支援施設協議会 理事会	沖縄	1 名
4/22～23	全社協 正副会長会議・常任協議員会	東京	1 名
4/24	全国身体障害者施設協議会研究大会実行委員会	春日市	2 名
4/25	県経営協 総務委員会	春日市	1 名
	福岡ライフレスキュー事業 次期運営委員会委員の推薦及び第 1 回運営委員会		
5/2	第 57 回福岡県身体障がい者体育大会	福岡市	1 名
5/7	福岡県庁訪問	福岡市	1 名
5/10	九社連 会長会議	熊本	1 名
5/15～16	身障協 協議員会	東京	1 名
5/15・28	社会福祉施設新任職員研修	春日市	1 名
5/23	社会福祉施設協議会連絡会第二回「会長会議」	東京	1 名
	集団指導（通所）	久留米市	1 名
5/28	集団指導（短期入所）	福岡市	1 名
6/3～5	強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践研修）	福岡市	1 名
6/4	全社協 第 1 回理事会	東京	1 名
6/5	平成 31 年度記録技術研修	春日市	1 名
6/6	県社協 理事会	福岡市	1 名
6/7・14	社会福祉施設役職員研修（基礎研修）	春日市	1 名
6/10	集団指導（通所）	久留米市	1 名
6/13	九障協 第 1 回サービス向上委員会	福岡市	3 名

6/13	感染症予防研修（前期）	大野城市	1名
6/14	福障協 筑後ブロック施設長会	八女市	3名
6/18	第1回特定給食施設等研修会	久留米市	1名
6/19	九障協 第2回理事会・第1回施設長総会	福岡市	1名
6/19～20	九州障害者支援施設協議会 施設長・リーダー職員研修会	福岡市	4名
6/20	東海・北陸ブロック 施設長研修	富山	1名
6/21	障害者支援施設北九州あゆみの里 落成式	北九州市	1名
	ストレスマネジメント研修（中堅職員コース）	春日市	1名
6/24	社会保障審議会・障害者部会	東京	1名
6/25	正副会長・委員長会議及び厚生労働省との意見交換会		
6/27	福岡県身障協 第1回施設長会及び施設長・職員研修会	小倉市	2名
7/2・4	福岡県相談支援従事者初任者研修（1・2日目）	大野城市	2名
7/5	第44回全国身体障害者施設協議研究大会 （福岡大会）第二回三役会・第4回実行委員会	春日市	2名
7/8	身障協 制度・予算対策委員会	東京	1名
7/9	身障協 権利擁護委員会	東京	1名
7/10	特定処遇加算の概要と取得手続セミナー	福岡市	1名
7/11・18	令和元年度会計担当者研修（初任者コース入門編）	福岡市	1名
7/18	障害関係種別協議会等会長会議	東京	1名
7/29	身障協 総務・広報委員会	東京	1名
7/30	身障協 研修・全国大会委員会		
8/3	社会福祉法人光生会 施設内覧会	大阪	1名
8/7	身障協 第1回調査研究委員会	東京	1名
	九障協 第11回サービス提供職員研修会に於ける打合せ	熊本	2名
8/8	福岡県障害福祉課訪問	福岡市	1名
	経営協 第2回社会福祉法人経営者セミナー		
8/16	身障協 第1回地域生活支援推進委員会	東京	1名
8/22	障害関係種別協議会等会長会議	東京	1名

8/23	福障協 サービス向上委員会	大野城市	2名
	令和元年度 労務管理研修	春日市	1名
8/26	北海道庁他あいさつ回り	北海道	1名
	常任協議会		
8/27～28	第43回全国身体障害者施設協議会研究大会	北海道	4名
8/30	福岡県社協 運営委員会	春日市	1名
9/3	全国身体障害者施設協議会研究大会 三役会及び実行委員会	福岡市	2名
9/3～4	福岡県相談支援者従事者初任者研修 (3・4日目)	福岡市	1名
9/4・9・26	福障協筑後ブロック 施設間職員研修	みやま市	1名
9/5～6	令和元年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース	春日市	1名
9/9・10・13	施設間職員研修	うきは市	1名
9/10	全社協 正副会長会議	東京	1名
9/18	九障協 定例理事会	大分	1名
9/19～20	身障協 施設協連絡会	宮城	1名
	九州身体障害者施設児施設研究大会	大分	1名
9/24	災害対策セミナー	福岡市	1名
9/24～25	第46回 国際福祉機器展	東京	1名
9/25	令和元年度 高齢者虐待防止研修	久留米市	1名
9/26	県社協 運営委員会	春日市	1名
10/2	福障協 幹事会・施設長会	春日市	2名
10/3	全社協 福祉懇談会	東京	1名
10/8	感染症予防研修(後期)	大野城市	1名
	福岡県相談支援者従事者初任者研修 (5日目)	博多区	1名
	ふくおかライフレスキュー事業サポーター養成研修	博多区	1名
10/16	中・四国身障協 役員懇親会	徳島	1名
10/17～18	中・四国身障協 職員研修会		
10/22	天皇陛下御即位「即位礼正殿の儀」	東京	1名

10/23	九障協 サービス向上委員会	熊本	2名
10/24～25	九障協 サービス提供職員研修会	熊本	3名
10/28	身障協 正副会長会議・常任協議員会	東京	1名
10/29～30	令和元年度 コーチング研修	福岡市	1名
10/30	令和元年福岡県福祉大会	春日市	2名
	福岡県サービス管理責任者更新研修	福岡市	1名
10/31	天皇陛下御即位「饗宴の儀」	東京	1名
11/5	全国身体障害者施設協議会研究大会 三役会及び実行委員会	福岡市	2名
	ノロウイルス食中毒予防講習会	久留米市	1名
11/6	特別養護老人ホーム等入所者入所者の診療の取り扱いに関する講習会	福岡市	1名
11/7～8	令和元年度業務改善研修	春日市	1名
11/11	福障協サービス向上委員会	宗像市	3名
11/11・15	福岡県ライフレスキュー事業 サポーター養成研修	福岡市	1名
11/13	経営者協議会 総務委員会	春日市	1名
11/14	障害者支援施設竹山苑 創立40周年式典	鹿児島	1名
	福岡県サービス管理責任者基礎研修(後期)	春日市	1名
11/15	日本の福祉を考える会	東京	1名
11/21	施設協連絡会 会長会議	東京	1名
11/21～22	福障協 職員研修会	宗像市	4名
11/22	令和元年度 全国福祉大会	東京	1名
11/23	公明党政策懇談会	福岡市	1名
11/25	たけ会県政報告会	福岡市	1名
11/27	近畿地区身体障害者施設協議会 役員懇談会	兵庫	1名
	応研 年末調整セミナー	福岡市	1名
11/28	近畿地区身体障害者施設協議会研究大会(兵庫大会)	兵庫	1名
11/29	福利厚生センター評議員会	東京	1名
12/3～4	身障協 職員スキルアップ研修	神奈川	2名

12/5	九障協 定例理事会	佐賀	1名
12/6	全社協 正副会長・委員長会議及び懇談会	東京	1名
12/7	衛藤晟一大臣との福祉懇談会	福岡市	1名
12/10	福障協 幹事会・施設長会	飯塚市	3名
12/17	福岡県介護福祉施設人材定着セミナー	福岡市	1名
12/19	社会福祉施設協議会連絡会 会長会議	東京	1名
	アンガーマネジメント研修	春日市	1名
12/23	福障協筑後ブロック 施設長会	久留米市	4名
12/25	各種別協議会正副会長等を対象とした勉強会	福岡市	1名
1/8	福岡市 研究大会	福岡市	1名
1/9～10	障害者虐待防止リーダー職員研修	東京	2名
1/16	身障協 正副会長会議・常任協議員会	東京	1名
	福祉サービス苦情解決従事者研修	春日市	1名
1/22	全国身体障害者施設協議会研究大会実行委員会	春日市	2名
	福障協サービス向上委員会	福岡市	3名
1/23	施設協連絡会 会長会議	東京	1名
1/30	社会福祉法人経営者セミナー	福岡市	1名
2/5	九障協 定例理事会・施設長総会	佐賀	2名
2/5～6	サービス管理責任者基礎研修（後期）	春日市	1名
2/6～7	九障協研究大会（佐賀大会）	佐賀	4名
2/13	県庁 表敬訪問	福岡市	1名
2/17	介護助手受入体制支援セミナー	福岡市	2名
2/18～19	身障協 地域生活支援推進研究会議	千葉	2名
2/19	利用者・家族とのコミュニケーション力向上研修	春日市	1名
2/20	施設協連絡会 会長会議	東京	1名
2/22	業務目標の設定・管理・達成研修	春日市	1名
2/25	身障協 正副会長会議・常任協議員会	東京	1名



2/26	テクノエイド協会 理事会	東京	1名
2/28	県社会福祉基金等運営委員会	春日市	1名
3/4	全社協 理事会	東京都	1名
3/10	県社協 理事会	春日市	1名
3/18	社会福祉振興・試験センター 理事会	東京都	1名
3/23	福岡県身障協 第二回役員会	春日市	1名
3/26	身障協研究大会(福岡大会)三役会・実行委員会	久留米市	2名

## 第二千歳療護園

### 《概況》

今年の新語・流行語大賞の年間大賞は、日本で開催されたラグビーワールドカップに於いて初のベスト8に進出する大躍進を遂げたラグビー日本代表のスローガン「ONE TEAM」、また、今年 of 漢字は新元号「令」が選ばれ、新たな時代の希望を感じた一年であった。昨年の漢字は「災」で、昨年度は幸いにもゆうかり学園法人全体には大きな影響を受けることは無かったが、今年度は9月下旬九州に上陸した台風の影響でゆうかり学園、第二千歳、千歳の屋上に設置されたエアコンの室外機が倒れ、第二千歳では居室を除く共有部分のエアコンが12月初旬まで使用できなくなり利用者様にご迷惑をお掛けした。

権利擁護・障害者虐待防止法・障害者差別解消法についても、更なる取り組みが重要視されている中、インカムの使用を継続しており、夜間帯でのコール対応についても同性での対応を心掛け、完全な同性介助の実現に向け努力している所である。

利用者様への防犯面として、昨年度、非常通報装置が設置されたが、不審者の侵入に適切な対応、通報ができる様、12月に不審者の侵入を想定した防犯シミュレーションを行った。また、更なる防犯対策としてサポート室に警棒2本を設置し、不審者の侵入時に適切な対応が出来るよう強化した。防災・減災面では、災害時事業継続計画（BCP）に取り組んでいる。

職員の腰痛・離職問題については、福祉機器導入に関する推進委員会を設置した。利用者様の介護時の身体への負担軽減、安全確保、職員の介護場面での腰への負担軽減を目的として、12月に3モーター電動ギャッジベッドを6台、1月には床式走行リフト1台を導入し、介護場面での活用に利用者様、職員共に好評を得ている。電動ギャッジベッドについては来年度以降も毎年6台を目途に導入を、リフトについては浴室・脱衣室天井走行リフトの導入を予定しており、今後も福祉機器を使った利用者様の介護時の身体への負担軽減及び安心・安全の確保、職員の介護スキルの向上、負担軽減、離職防止を目指すべく推進委員を中心にノーリフトケアに向けた取り組みを継続していきたい。

新型コロナウイルスの影響で、利用者様、ご家族には外出行事等の中止、緊急を要する以外の面会、外泊を禁止して頂き、日本国内外でも、不要不急の外出自粛、オリンピック、スポーツ関係、各種イベント等が延期や中止を余儀なくされている中、今年 of ゆうかり学園のスローガンである「令和の絆・ONE TEAM」を支えとして法人全体がひとつになって、この状況を乗り切らなければならないと思う。

<第二千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

年間延べ利用者数 14,464 名 充足率 98.7% (開所日数 366 日)

【生活介護：定員 40 名】

年間延べ利用者数 10,352 名 充足率 98.7% (開所日数 262 日)

【短期入所：定員 2 名】

7 名の利用者様 年間延べ利用者数 41 名

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者】

5 名の利用者様が延べ 135 日間の入院、また外泊日数は延べ 41 日間となっており、入院日数や外泊日数を除く実利用者数は 14,464 名で 98.7%の充足率であった。尚、令和 2 年 3 月 31 日現在、入院者はいない。

2. 本年度の地域別入退園状況は別表 (1) の通りである。

別表 (1) 本年度の地域別入退園状況

生活部

(1) 生活支援課

(パートナー係)

個別支援計画のニーズを中心に利用者様の立場に立った利用者様本位のサービス提供を基本において、月 1 回の自治会役員との話し合い (暖和会) や園長との懇談会、職員との懇談会、利用者様の話し合いの場 (ちとせ会) を通して、利用者様の自主性・選択性・対等性を尊重しながらサービス提供を行ってきた。

利用者様のニーズとして最も多い外出行事に関しては、ゆめタウン久留米や吉井ユメマートへ買物を中心とした外出を毎月計画してきた。今年も利用者様が一番楽しみとされている食事をメインとしたランチ外出を主に行い、利用者様に大変喜んでいただいている。希望外出では毎年行われている身体障害者スポーツ大会に参加、買物外出やランチ外出、招待外出以外にも、有償の外出サービスを利用される方もおられ、利用の希望が出た時には事業者と外出日時などの連絡調整を行い外出のサポートを行っている。

日中活動として午後よりビデオ視聴やカラオケ、月1回のレクリエーションを実施してきた。また日中活動と並行してケース担当者が担当利用者様とマンツーマンで関わり、本人様のご希望をお伺いしながら居室整理や運動公園への散歩、テレビゲームや塗り絵、オセロ、更に今年度購入したプレイステーションVRも楽しんでいただいた。個別活動として行い、利用者様との日中活動の充実を図ってきた。

月1回の活動として、生け花では完成した作品を千歳、第二千歳、渡り廊下等に飾り利用者様、来客の皆様に季節の花を楽しんでいただいている。ネイルアートでは1回に4名程度と少人数ではあるが、プロのネイリストの方にお好みの色で爪を鮮やかな色彩で飾っていただきとても楽しい時間を過ごしている。また理容師と美容師の方に来園して頂き、出張散髪として理容師の方には主に男性利用者様を、美容師の方には女性利用者様の散髪をして頂いている。今年度は訪問理美容サービスの利用を開始し、シャンプーやカラーを美容室に行ったかのような設備でしていただいている。カラーは男女問わず人気で順番待ちである。

今年度、水害や地震、台風など日本各地が天災による復興の最中、2月に中国で発生した新型コロナウイルスの感染により26日より当施設でも外出、面会を一時中止とさせていただいた。外出・活動も縮小されマスク、消毒液の不足など大きな打撃を受けている。その様な中でも利用者様の安心、安全、快適な生活を送っていただける施設として感染予防に十分配慮しながら最善の努力をしていかなければと考えている。

☆ 週生活表は別表(2)、年間実施行事は別表(3)の通りである。

(サポート係)

施設入所支援40名、生活介護40名、短期入所2名。現在、男性23名、女性17名(最少年齢33歳、最高年齢87歳、平均年齢58歳)の方の日常の生活介護・精神的支援、個別のニーズに沿った支援を行った。

今年度も、サービス管理責任者を中心に、利用者様の自立支援を目標に、ケアプランの作成・実施・検討を行いながら日々の支援を行った。

今年度、第二千歳療護園は開設6年目を迎え、利用者様の平均年齢も58歳を超え、加齢に伴い身体の機能低下も著しく見られ、介護や医療を必要とする場面が多くなって来ている。健康維持(誤嚥性肺炎予防など)を目的とした口腔ケアの実施を継続して行っていたが、慢性的な誤嚥性肺炎で2名の方が入院された。

9月22日、九州に上陸した台風の被害を受け、屋上に設置している食堂や廊下、トイレなど共有部の大きなエアコンの室外機が倒れ使用不能となり、利用者様には、ご迷惑をお掛けした。エアコンが使用できない間の対策として、やはりトイレにつ

いては寒さを感じやすいため、職員の自宅で使用していない暖房器具を持参し、窓ガラスには発泡スチロール板や緩衝材を貼り付け応急的に寒さを凌いだ。12月8日には完全復旧し快適な生活を送って頂いている。

現在でも世界的な感染拡大を見せ猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の対策については、法人にて感染予防対策基本指針を策定し、職員については、不要不急の外出自粛、出勤時の手指消毒、検温、マスクの着用、手洗いの励行、施設内の共有部分の消毒を行った。また、利用者様も、不要不急の外出・外泊については自粛(中止・延期)、面会についても、やむを得ない場合を除き禁止とさせて頂き、常に予防の必要性の認識を促しながら、利用者様の安全を守るために感染防止に万全を尽くした。

今年度も福岡県障害者支援施設協議会筑後ブロック6施設に於いて、介護職員限定で実践を通し、職員の資質、サービスの向上に努めるとともに職員同士の交流を深め、各々の施設の支援力アップを目指すことを目的に、第2回施設間研修が行われた。内容は、各施設の現場で直接3日間研修するものだった。今年度は慈久園より1名の研修生を受入れ、また、菊池園へ1名研修に行っている。

個別支援への取り組みについては、昨年度同様、日中活動委員会を中心に、漠然と日々を過ごすことの無い様、ビデオ視聴、カラオケ、レクリエーション、個別活動など、継続的に計画・支援を行なった。また、外出では、ランチ外出を取り入れ気軽に外出が行えるよう支援を行った。

今後も多様化してくる利用者様のニーズに応えるべく、全職員で支援に取り組んで行きたい。

## (2) 訓練支援課

第二千歳療護園においては、利用者様40名(男性23名・女性17名)に対し、理学療法士1名・機能訓練員1名で訓練を実施した。

利用者様一人あたり一回の訓練時間を40分とし、身体状況によって週1~2回実施。個別に関わり、状況に応じて居室を使用し、充実した訓練内容となるよう支援を行った。

訓練内容については、利用者様の身体的状態・高齢化に伴い、主に体力・筋力・バランス能力の維持、残存機能の維持、関節可動域の維持、拘縮の予防、痛みの軽減等を目的として実施している。訓練を行いながら利用者様の思いや不満を傾聴することで、ストレスの解消や情緒の安定にも務めている。また利用者様の希望される、折り紙や塗り絵等の制作活動や、バッティング、キャッチボールとい

った体を動かす活動、オセロやトランプ、パソコン（インターネット検索）等の趣味活動、散歩（屋内外）などを行うことで、訓練時間をより楽しいものと感じていただけるよう関わり、訓練への参加意欲向上を図った。筋力低下にて車椅子移乗時の姿勢保持悪化により誤嚥、身体の変形を誘発している利用者様もおられ、予防、改善の為にテーブル・クッション作製（業者）を行っている。内容については下記の通りである。

また例年に引き続き、車椅子管理をはじめ、補装具の交付手続き 2 名、修理申請手続き 4 名、福祉用具購入 3 名等についても実施した。

（訓練内容）

- 関節可動域訓練
- 体力、筋力、バランス能力訓練  
（腕立て、腹筋、背筋、スクワット、チューブトレーニング等）
- 巧緻動作訓練（パズル、はめ絵、折り紙等）
- 姿勢保持訓練（立位、座位バランス等）
- 日常生活動作訓練（車椅子移動、移乗動作等）
- 歩行訓練（歩行器歩行）
- 趣味活動（バッティング、ゲーム、パソコン等）
- リラクセーション（マッサージ、プロンキーパー等）

### **(3) 相談支援課**

《概況》

2019 年 8 月 1 日に第二千歳療護園は開園 6 年目を迎え、利用者様の生活環境、職員の職場環境を整える一環として、福祉機器の電動ベッドや床走行リフトの設置、購入にも取り組み、利用者様の安心、安全で快適な生活及び職員の介護負担の軽減にも繋がっている。

相談援助課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務（食事、入浴、排泄、移動等）での関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

さらに、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を継続し、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット等にも取り組んだ。

また、散歩等には最適な環境であるため、気分転換・ストレス解消・地域の多くの方との触れ合い等を目的に敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

年々利用者様の高齢化、重度化の前兆が生活全般の様子から伺えるようになった。身体機能の低下は、あくまでも利用者様の意思を尊重しつつ支援していきたい。また、急変時の対応についてもマニュアルを確認しつつ、日々の観察を怠る事なく、他の部署と連携を取りながら、利用者様が快適な生活を過ごせるように支援したい。

(支援内容)

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④ポジショニング（リラクセーション、慢性痛の軽減、QOLの拡大等）
- ⑤前頭前野活性化法（読み聞かせ、公文カード、ドリル等）
- ⑥介護全般
- ⑦メンタルヘルス（ドライブ外出、カウンセリング）
- ⑧環境整備、その他

#### (4)看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、医療ニーズを抱える方も増加傾向であり、協力病院との連携が必要不可欠な状況である。園内でも、常日頃から多職種との協働・連携を取り、情報共有を行い、医療的ケアを安全・安心に提供できるように努めていきたい。

《2019年度》

① 委託入院	田主丸中央病院	4件
	くるめ病院	2件
② 医療的ケア	経管栄養（胃瘻）	2名
	吸引	1名
	吸入	2名
	注腸	1名
	膀胱瘻	1名
	留置カテーテル	2名

皮下注射 1名

③ インフルエンザ予防接種 36名

④ 第二千歳療護園 年齢別入所者数 2020年3月31日現在

年齢	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	計
利用者数	0	1	5	17	7	10	40
%	0	2.5	12.5	42.5	17.5	25	100

⑤ 第二千歳療護園 病類別入所者数 2020年3月31日現在

病名	人数	病名	人数
脳性麻痺	29	脳梗塞後遺症	2
先天性骨発育不全症	1	頭部外傷後遺症	1
高血圧性脳出血	1	糖尿病	1
脳炎後遺症	1	脳出血後遺症	1
白内障術後無水晶体眼・左眼球萎縮	1	精神発達遅滞	1
クーゲルベルグ・ヴェランダール病	1		



別表(1)

## 地域別入退園者状況表

2019年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町							
	上 陽 町							
	大 木 町	2			2	1	1	
	上 毛 町	1			1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町	1			1	1		
	筑 前 町	1			1	1		
	福 智 町	1			1		1	
小 計	6			6	4	2		
市 福 祉 関 係	福 岡 市	3			3	2	1	
	北 九 州 市	1			1	1		
	大 牟 田 市							
	久 留 米 市	10			10	5	5	
	直 方 市							
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市							
	柳 川 市	1			1		1	
	宗 像 市							
	八 女 市	1			1	1		
	筑 後 市							
	大 川 市	1			1	1		
	小 郡 市	1			1		1	
	筑 紫 野 市	2			2	1	1	
	春 日 市							
	大 野 城 市							
	糸 島 市							
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
中 間 市								
古 賀 市								
う き は 市	5			5	2	3		
朝 倉 市	4			4	3	1		
み や ま 市	3			3	2	1		
福 津 市								
小 計	34			34	19	15		
県 外	鳥 栖 市							
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
小 計								
合 計		40			40	23	17	

別表 (2)

## 週 生 活 表

第二千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床 着替・洗面・移動						
8:00	朝食 移動・排泄・歯磨き						
9:00	(朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会
10:30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	【生花】	
11:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓練	訓練	定期診察	療育会議 外出 園長懇談会	訓練	外出 ちとせ会 職員懇談会	
15:00	訓練	訓練	暖和会	訓練	訓練	訓練	
16:00							
16:20	※入浴は、週2回と3回を隔週で行い、男女各2グループに分け、1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き(自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き(介助者)						
21:00	歯磨き(自立者)						
21:00	消灯						
	○ 月曜日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション(月～土) ○ 火曜日 利用者買物(隔週) ネイルボランティア(毎月1回) 暖和会(第2週) ○ 水曜日 買物外出、療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義) ○ 木曜日 買物外出、ちとせ会・職員懇談会(第2週) 午後カラオケ ○ 金曜日 ビデオ視聴・個別活動・制作活動・ランチ外出・レクリエーション ○ 土曜日 生け花(第3週) ○ 日曜日 体重測定(第2日曜) ○ 月行事 出張散髪(第1週火曜日、最終月曜日)、園長との懇談会(水曜日又は木曜日) ○ 隔月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)						

別表 (3)

年間実施行事記録表

2019 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等	
4	14	千歳療護園開園 40 周年記念式典	10	8	出張散髪	
	20	生花		10	ネイルボランティア	
	22	出張散髪		19	ゆうかり学園運動会	
	23	ネイルボランティア		28	出張散髪	
5	1	招待外出(サニックスラグビーユース)	11	5	出張散髪	
	2	身障者スポーツ大会		7	ネイルボランティア	
	17	日産労連ミュージカル		9	生花	
	18	生花		10	短歌会	
	19	希望外出コンサート(ヤフオクドーム)		12	訪問理美容	
	22	出張散髪		20	ランチ外出	
	23	ネイルボランティア		25	出張散髪・ランチ外出	
6	1	生花	12	26	ドライブ外出	
	2	ちとせ祭		3	出張散髪	
	20	ネイルボランティア		10	ネイルボランティア	
	24	出張散髪		11	うきは消防署指導避難訓練・餅つき慰問	
7	3	避難訓練	1	12	14	生花
	9	本仏寺慰問		16	出張散髪	
	13	生花		17	訪問理美容	
	18	ネイルボランティア		18	忘年会	
	25	盆踊り花火大会		7	出張散髪	
	29	出張散髪		14	訪問理美容	
8	1	第二千歳開園記念日	2	16	ネイルボランティア	
	20	出張散髪		27	出張散髪	
	22	ネイルボランティア		4	出張散髪	
	24	生花		10	ランチ外出	
	26	出張散髪		12	招待外出(木下大サーカス)	
	29	納涼祭		17	出張散髪・ランチ外出	
9	3	出張散髪	3	18	ネイルボランティア	
	6	招待外出(ナイター野球観戦)		20	ランチ外出	
	20	招待外出(ナイター野球観戦)・ランチ外出		21	ランチ外出	
	21	生花		22	生花	
	25	ランチ外出				
	28	希望外出コンサート鑑賞(そよ風ホール)				
	30	出張散髪・ランチ外出				
					※新型コロナウイルス感染予防対策 の為、出張散髪、外出ネイルボラ ンティアは、中止	

## 参) 実習生受け入れ状況

\* 介護等体験実習(福岡大学、久留米工業大学)

学校名	実習期間	人数	日数
久留米工業大学	6/24~6/28	1	5
	8/5~8/19	1	5
福岡大学	9/9~9/13	1	5

延べ人数 15名

別表 (4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区 分	男	女	計

食 事	自 立	2	2	4
	一部介助	11	11	22
	全介助	10	4	14
起 坐	自 立	7	6	13
	一部介助	2	1	3
	全介助	14	10	24
立ち上がり	自 立	3	3	6
	一部介助	4	2	6
	全介助	16	12	28
排 泄	自 立	1	2	3
	一部介助	7	3	10
	全介助	15	12	27
更 衣	自 立	3	3	6
	一部介助	5	2	7
	全介助	15	12	27
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	3	6
	全介助	20	14	34
歩 行	自 立	1	1	2
	一部介助	1	2	3
	全介助	21	14	35
寝返り	自 立	10	6	16
	一部介助	2	2	4
	全介助	11	9	20
車椅子使用	自 立	4	2	6
	一部介助	8	8	16
	全介助	9	5	14

生活動作	区 分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	2	2	4
		2回	5	7	12
		3回	6	6	12
		4回	5	2	7
		計	18	17	35
	服 薬	1回	13	7	20
		2回	8	10	18
		3回	0	0	0
		計	21	17	38
	体位変換	1回	0	1	1
		2回	1	0	1
		3回	0	2	2
		6回	0	0	0
		計	1	3	4
	おむつ使用	昼・夜	14	6	20
夜間のみ		1	3	4	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

2019年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
4/23	福岡県身障協研修委員会	春日市	1名
5/2	福岡県身体障がい者体育大会	福岡市	1名
5/15・28	社会福祉施設役職員研修 新任職員研修	春日市	1名
5/21・22	社会福祉施設役職員研修 新任職員研修(講師)	春日市	1名
5/23	福障協 第1回定例施設長会	春日市	1名
6/5	平成31年度記録技術研修	春日市	1名
6/7・14	社会福祉施設役職員研修 基礎研修	春日市	1名
6/10	久留米市集団指導：障害福祉	久留米市	1名
6/14	福障協 筑後ブロック施設長・職員研修会	八女市	3名
6/19～6/20	九障協 施設長総会 施設長リーダー職員研修会	福岡市	1名
6/19～6/20	九障協 施設長リーダー職員研修会	福岡市	2名
6/21	ストレスマネジメント研修 中堅職員コース	春日市	1名
6/27～6/28	県身障協 第1回施設長会及び施設長・職員研修会	小倉	3名
7/2・4	福岡県相談従事者初任者研修	大野城市	2名
7/10	特定処遇改善加算の概要と取得手続セミナー	福岡市	1名
7/12・19	会計担当者研修初任者コース	福岡市	1名
7/19	福障協 サービス向上委員会	千歳内	1名
8/8	第2回社会福祉法人経営者セミナー	福岡市	1名
8/19～20	キャリアパス管理職員コース	春日市	1名
8/23	令和元年度労務管理研修	春日市	1名
8/23	福障協 第2回サービス向上委員会	大野城市	1名
8/26～8/28	第43回全国身体障害者施設協議会研究大会	北海道	5名
9/3～9/4	福岡県相談従事者初任者研修	博多区	1名
9/3	AED講習会	うきは市	1名
9/5～9/6	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程チームリーダーコース	春日市	1名

9/19～9/20	九州身体障害児者施設研究大会	大分県	2名
9/24	災害対策セミナー	博多区	2名
9/24～9/26	筑後ブロック施設間職員研修	菊池園	1名
10/2	福障協 定例施設長会	春日市	1名
10/8	福岡県相談従事者初任者研修	福岡市	1名
10/11	会計・財務セミナー	福岡市	1名
10/16	福岡県サービス管理責任者更新研修	福岡市	1名
10/24～10/25	九障協 サービス提供職員研修会	熊本市	2名
11/11	福障協 サービス向上委員会	宗像市	1名
11/14	福岡県サービス管理責任者基礎研修	春日市	1名
11/14	令和元年分給与所得の年末調整等 説明会	うきは市	1名
11/21～11/22	福障協職員研修会	宗像市	3名
11/25～11/26	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員コース	春日市	1名
11/27	応研 年末調整セミナー	福岡市	1名
12/3～12/4	身障協職員スキルアップ研修	神奈川	1名
12/10	福障協 施設長会	飯塚市	1名
12/19	令和元年度アンガーマネジメント研修	春日市	1名
12/23	福障協 筑後ブロック施設長会	久留米市	4名
1/9～1/10	障害者虐待防止法リーダー職員研修	東京	2名
1/22	第5回福障協サービス向上委員会	福岡市	1名
1/16	福祉サービス苦情解決従事者研修会	春日市	1名
1/28	社会福祉法人監事及び会計責任者研修	春日市	1名
1/30	令和元年度 第3回社会福祉法人経営者セミナー	福岡市	1名
2/5～2/7	九障協 総会・研究大会	佐賀市	1名
2/6～2/7	九障協 研究大会	佐賀市	2名
2/5～2/6	福岡県サービス管理者責任者研修	春日市	1名
2/17	介護助手受入体制支援セミナー	福岡市	1名

2/19	利用者・家族とのコミュニケーション力向上研修	春日市	1名
2/18～2/19	第19回地域生活支援推進研究会議	千葉県	2名
2/22	業務目標の設定・管理・達成研修	春日市	1名

## 久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業

### 《概況》

慢性的な疾病にかかっていることにより、長期にわたり療養を必要とする児童等の健全育成及び自立促進を図るため、児童等及びその家族からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行い、関係機関との連絡調整を行うため、久留米市より委託された事業。

- ・実施期間 2019年4月1日～2020年3月31日
- ・看護師2名、社会福祉士1名の3人体制
- ・相談事業については10月・11月の更新申請の受付期間（各月4日間、計8日間）に56名の対象者と個別面談（支援員1名配置）を行った。  
その他に電話相談3件あり、対応を行った。
- ・レスパイトに関する問い合わせは0件であった。
- ・ピアカウンセリングを10月「小児がん」について実施。参加者が2名であったが、和やかな雰囲気で行進できた。3月に心疾患をテーマに開催する予定であったが、講師の選定ができず、開催できなかった。
- ・今年度は久留米市全域の方が受診の際に相談しやすいように、久留米大学病院と聖マリア病院にて療育相談窓口を開設した。6日間開設し、相談者数は4件であった。

### 《成果とまとめ》

本事業の委託を受け、4年経過した。小児慢性特定疾患児童等自立支援事業と自立支援員が当事者や関係機関に周知できていないことが、相談件数の上がらない要因となっていると考える。

相談のあったケースに対して、ゆうかり医療療育センターの外来訓練に案内したものが1件、九州大学病院の主治医と連携したものが1件あり、関係機関につなぐ、という役割を果たすことができた。

昨年からの課題であった就学や就労に関する相談に対して、ピアカウンセリング事業を行うことを計画していたが、保健所との連携がうまくいかず、実現しなかった。

小児慢性特定疾患が複雑多岐にわたっており、医療や福祉、教育との連携が大切であるが、うまくコーディネートできなかったことが反省としてあげられる。この事業は今年度で契約終了になるが、これまでに得た知識を今後活かしていきたい。



《出張関係》

・小児慢性特定疾患児童等自立支援事業 地域関係者向け研修会

6月15日	看護師	1名参加
7月26日	看護師	1名参加
7月30日	看護師	1名参加
8月23日	看護師	1名参加

・小児慢性特定疾患児童等自立支援事業 療育相談

9月5日、11月7日、1月14日（久留米大学病院）

10月1日、12月3日、2月4日（聖マリア病院）

看護師2名、社会福祉士1名の中から2名体制で実施

・小児慢性特定疾患児童等自立支援員 定例会

5月30日	看護師	1名参加
9月17日	看護師	1名参加
11月28日	看護師	1名参加
1月24日	看護師	1名参加

# 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

## 1. 委託相談概況

委託相談では、東部地区（H・Kエリア）に在住の本人、家族からの個別の相談に対応した。相談件数 1,248 件は昨年と比較すると 100 件近く減少している。これは、相談者が徐々に定着化していることと新規相談の減少が関係している。東部地区の障害当事者に対するセーフティネット機能の検証と新規相談の受付体制の見直しが必要である。相談の対応方法については、電話相談が大多数を占めるものの、アウトリーチ支援や面談、訪問を合わせると 370 件以上あり、対応にかかる時間も長時間となっている。相談内容としては「福祉サービスの利用等」や「就労」、「年金相談」などは横ばいであるが、「不安の解消・情緒安定」は増加している。障害種別で精神障害や発達障害のある方からの相談が増加していることにも起因している。

関係機関との連絡・調整は昨年よりも 80 件近く増加している。就労機関や生活自立センターとの連携に加え、中間支援的な役割で専門機関へつなぐケースが増えたことによる。収入や年金など経済的な相談については生活困窮に関する支援機関との連携や、かかる時間も長期に渡る傾向にある。

他にも今年度は地域生活支援協議会各分科会や権利擁護地域ケア会議、多機関連携部会などへの出席を通し他の支援機関との相談体制の強化・共有を行った。

### 【1】総合的・専門的な相談支援

#### ○相談支援実績

述べ相談件数 合計：1,248 件

相談方法	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	その他	合計
計	162	72	74	733	138	62	7	1,248

相談内容別件数合計数：1,550 件

相談内容	福祉サービスの利用等	障害や症状の理解	健康医療	不安の解消 情緒安定	保育教育	家族関係 人間関係	家計経済
計	534	17	84	424	9	71	100

生活技術	就労	社会参加 余暇活動	権利擁護	その他	住宅	合計
93	145	22	4	32	15	1,550

## ○障害種別相談人数

実相談人数：493(68)件 うち()内は児童

	身体障害	知的障害	精神障害	重症心身障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他	合計
計	81 (0)	122 (16)	197 (15)	0 (0)	50 (37)	18 (0)	22 (0)	3 (0)	493 (68)

※重複障害の場合があるため、実人数≦合計

## ○関係機関との連絡・調整

合計件数：2,550件

	行政機関	就労機関	医療機関	福祉サービス事業所	居宅介護事業所	地域包括支援センター	相談支援事業所	教育機関
計	440	109	374	481	88	44	752	32

成年後見関係	住宅関係	療育機関	発達障害者支援センター	その他	合計
0	15	8	8	199	2,550

## 2. 基幹相談概況

基幹相談では、相談支援事業所に対してサービス等利用計画作成についての助言、個別支援会議への同行、困難ケースへの対応を行った。限られた事業所・相談支援専門員でセルフプランの解消や新規相談者のサービス等利用計画の推進を実現させるため、可能な限り相談員をサポートすることに努めた。計画相談の繋ぎに関しては、サービス利用が安定しなかったことの原因から相談支援事業所に依頼できなかったケースもあった。一方で、相談支援事業所が開催する会議の出席や同行は前年度より増加した。相談支援事業所との連携は密になってきている。

今年度は基幹主催の研修を2回企画・運営した。11月には強度行動障害の基礎研修と実践研修、2月には「発達？何なん？」をテーマに当事者、保護者、教育関係者をパネリストとしてパネルディスカッション、グループワークを行った。

久留米市障害者地域生活支援協議会では重心分科会、こども分科会、当事者分科会の事務局として携わった。重心分科会は医療ケアが必要な重心児・者のサービス提供事業所に対して実態把握を目的にアンケート調査を行った。また、在宅の重心者の方の災害支援を検討する中で当事者家族、地域の支援者に協力を得て、水害発生を前提とした避難の手順や支援体制について検討を行った。

こども分科会では、子どもに関する支援者や事業所との情報共有を行った。更に、

地域づくりの取り組みとして荒木校区の市民活動団体と「いいねマップ」の作成協力を行った。

当事者分科会は、2か月に1回バリアフリーカフェを開催し、当事者の意見をまとめる活動を行った。

基幹センターの広報・啓発として、ホームページ上で基幹センターの取り組みや市内の研修会や障害者団体が主催している研修等の情報発信を行った。機関誌は「重心分科会」と「当事者分科会」をテーマに取り上げ9月と2月に発行した。

地域の相談機関との連携では、地域包括支援センター主催の地域ケア会議や久留米市役所地域福祉課主催の多機関連携部会へ参加した。地域の支援者や関係機関と情報共有や連携することでサービスにつながっていない障害者や未受診者の相談に結びつくようになってきた。

東部エリアの地域課題は、福祉サービスの社会資源が少なく相談支援事業所がサービス調整に苦慮していることが多い。行政や関係機関と連携しながら福祉サービス以外の自助・共助といった地域の社会資源に繋がられるような取り組みを目指したい。

### 【1】 指定相談支援事業者等に対する指導、助言

○支援内容：264 件

	基幹から計画相談依頼	事業所からのケース相談	会議等の出席	同行	情報共有	情報提供のみ	計画作成における助言	その他	合計
合計	10	2	58	55	130	3	2	4	264

### 【2】 サービス等利用計画作成の推進に伴う指定相談支援事業所への繋ぎ人数

	障害者	障害児
合計	14	4

### 【3】 久留米市障害者地域地域生活支援協議会について

分科会・部会名	部会開催回数	事務局会	準備・調整及び連携回数
全体会	1	0	3
計画策定部会	1	0	1
権利擁護部会	2	1	3
施策推進部会	1	0	6
重心分科会	8	8	47
こども分科会	9	4	31
相談分科会	10	6	21
当事者分科会	5	3	9
災害ワーキング	1	0	15

**【4】出張（24件）**

第1回多機関連携部会(4月18日)

筑後若者サポートステーション 第1回連携会議(6月11日)

第1回 八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会(6月20日)

多機関連携部会研修会～地域を基盤とした多機関連携を考える～(7月1日)

福岡県地域自立支援協議会担当者会議(8月5日)

第2回多機関連携部会(8月22日)

東部圏域介護支援専門員研修会～耳納の会～(9月10日)

第66回筑後地区アルコール・薬物等関連問題研究協議会(10月2日)

八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会(10月18日)

福岡刑務所視察研修(10月30日)

強度行動障害 基礎研修(11月6日、7日)

強度行動障害 実践研修(11月20日、21日)

九州地区障害者支援事業合同大会(12月5日、6日)

第2回八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会(1月17日)

第3回多機関連携部会(1月22日)

当事者分科会(バリアフリーカフェ)(5月25日、7月27日、9月28日、11月23日、1月25日)

基幹研修「発達、何なん？」(2月15日)

**【5】主催研修（8件）**

相談支援事業所との勉強会(5月2日、6月28日)

強度行動障害 基礎研修(11月6日、7日)

強度行動障害 実践研修(11月20日、21日)

東部エリア相談支援事業所 実践研究会(11月27日)

基幹研修「発達、何なん？」(2月15日)

**【6】参加研修（16件）**

第1回多機関連携部会(4月18日)

筑後若者サポートステーション 第1回連携会議(6月11日)

第1回 八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会(6月20日)

多機関連携部会研修会～地域を基盤とした多機関連携を考える～(7月1日)

第1回権利擁護地域課題検討ケア会議(7月12日)

福岡県地域自立支援協議会担当者会議(8月5日)

第2回多機関連携部会(8月22日)

東部圏域介護支援専門員研修会～耳納の会～(9月10日)  
第66回筑後地区アルコール・薬物等関連問題研究協議会(10月2日)  
八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会(10月18日)  
福岡刑務所視察研修(10月30日)  
九州地区障害者支援事業合同大会(12月5日、6日)  
協議会主催看護研修(12月8日)  
第2回八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会(1月17日)  
第3回多機関連携部会(1月22日)  
消費者被害対策研修会(2月21日)

## 【7】会議

基幹相談センター運営会議（第3木曜日）  
基幹相談センター長会議(第1木曜日)  
基幹研修ワーキングチーム(不定期)  
地域生活自立支援協議会（全体会、計画策定部会、権利擁護部会、施策推進部会、  
重心分科会、こども分科会、当事者分科会、各部会・分科会事務局会議）  
H・K圏域権利擁護個別支援地域ケア会議（定期開催）  
田主丸地域民児協包括連絡会議(竹野校区、水縄校区、船越校区、水分校区、田主丸  
校区を各月開催)  
多機関連携部会  
医療・教育・福祉施設等との関係者会議・個別支援会議

## 【8】連携した主な機関

医療機関(市内外)、東部エリア小・中学校、久留米市特別支援学校、田主丸特別支  
援学校、福祉サービス事業所(市内・外)、民生委員、児童委員、訪問看護事業所、  
相談支援事業所(市内・外)、久留米市役所(田主丸総合支所)各課、久留米市保健所、  
他市役所各課、地域包括支援センター、福岡県難病支援センター、発達障害者支援  
センター、障害者・就業生活支援センター、幼児教育研究所、生活自立支援センタ  
ー、市社会福祉協議会、若者サポートセンター、ハローワーク

# 委員会報告

- 苦情解決委員会
- 虐待防止委員会
- 安全管理委員会
- 医療機器安全管理委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 衛生委員会
- 広報委員会
- 療育会議運営委員会
- 福祉 QC 委員会
- ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

## 苦情解決委員会

### 《概況》

2019年度苦情解決委員会は、施設ごとの定期委員会開催、苦情・要望への対応・調整・解決等に関しては迅速に取り組んだ。

法人委員会としては、療育会議において、12月に第三者委員への報告会、2月に療育会議において職員報告会を行った。特に第三者委員への報告会においては、守秘義務に配慮した上で苦情・要望記入票等を事前に第三者委員へ送付し、吟味して頂いた上で報告会を開催した。職員の接遇についての苦情に対しては、管理職や中堅職員が見本となり、指摘しあえる職場風土をつくらなければならない。上司は職員の様子や変化をしっかりと見ていく様に。メンタルをしっかりとチェックして声かけをし、コミュニケーションを大事に、と指導を受ける。

### 《苦情・要望件数》 2019年4月1日～2020年3月31日

	ゆうかり医療療育センタ	コアラ園	耳納学園	千歳療護園 第二千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	0	0	1	0
2. 施設への要望・苦情	3	0	1	1
3. 利用者様から利用者様への苦情	0	0	0	1
4. 保護者(後見人)よりの苦情・要望	0	0	0	1
5. 利用者様同士の苦情	0	0	2	0

### 《基本的取り組み内容及び状況》

ゆうかり医療療育センターにおいては、施設への要望が3件あった。当該の部署へ報告し、迅速に対応した。投書箱の要望に関しては匿名であったため、掲示物等にて対応した。

コアラ園では、苦情解決マニュアルを作成し、委員に配布、内容の周知をおこなった。保護者へのアンケート調査を行い、要望等の改善策を表記し、アンケート結果をホームページにて公表した。

千歳療護園、第二千歳療護園では、「異食」についての苦情は担当職員が居室の環境整備を行ったことに対しては考慮されるが、利用者様の日々の状況等を確認する配慮に欠けていたと思われる。「パントリーの機械音」についての要望は、昨年対応はしていたが、原因につながる確認作業が足りなかったと反省している。最後に「友人との再会」についての要望は長年の願いが達成され満足された利用者様の表情が印象に残った。

耳納学園では、福祉的就労の場として、まずは利用者様同士にて解決の努力、自治会活動にて対応の話し合いを行い、自立した生活を尊重し、自己決定、自己責任、自己解決の努力をした。その上で、職員は相談、助言を行い、利用者様に不満を抱かせないように、速やかな解決、対応が出来るように心掛け支援を行った。

今回、自治会活動での解決が難しく、苦情解決委員を交えて話し合いを持ち、対応を行った、利用者様同士の関係・言動・態度に関する事案が3件あった。今後も利用者様の自立した生活を尊重しながらも安心した生活を送って頂けるよう支援を行い、また、職員は自身の言動に責任を持ち、権利擁護の意識、福祉施設



職員としての自覚や意識の向上に努めていきたい。

## 虐待防止委員会

### 《概況》

2019年度の虐待防止委員会は、各施設で定期的な委員会を開催、利用者様の虐待防止を目的に、権利擁護、身体拘束や不適切なケアなどについて状況や改善事項を確認し取り組んだ。

虐待防止の自己チェックのアンケートを行い、施設の特性にあった、施設ごとのアンケートを再チェックし、評価し問題提起しながら取り組んでいる。

全体研修会として、9月に外部講師による人権学習、12月に虐待防止研修会を行った。虐待防止研修会では、虐待防止の自己チェックの集計結果の報告を行った。また、グループワークにて、職場の人間関係、コミュニケーション等について意見交換を行った。12月の第三者委員報告会において、虐待防止セルフチェックの結果報告を行った。

今後も定期的に行っていき、虐待防止に繋がっていくよう、継続していく。

### 《取り組み》

ゆうかり医療療育センターでは、各寮において、虐待防止委員会を1回/月開催し、権利擁護、身体拘束の視点から、問題提起し、カンファレンス等において、情報の共有を図り、人権意識を高めながら、支援の質の向上に繋げていった。医療的身体拘束（輸液に係るミトンの使用等）は発生しているが、後見人の説明と承諾をとり、記録等明確にしている。虐待防止自己チェックリストの結果を踏まえ、虐待につながるようなアンケート内容を抽出し、周知していった。

コアラ園では、毎月第3水曜日に開催するコアラ園会議内で委員会を実施し、虐待に関する情報等を各委員より出してもらい記録していった。

登園児保護者の子供への気になる接し方や、身体整容などの情報が主に出た。

相談支援事業所「夢の紀」スタッフと連携し、各当該市町村へ情報を提供していった。

千歳療護園、第二千歳療護園では、9月と3月に権利擁護委員会を開催し、現在身体拘束状態にある利用者様の現状報告、及び身体拘束廃止に向けた検討、「施設・地域における障害者虐待防止チェックリスト」（9月と3月に実施）に対するそれぞれの施設の評価、各種研修会への参加状況報告を行っている。チェックリストについては、具体的な内容を記入して頂き、問題点の対応等を検討し、それぞれ施設のカンファレンスにて全職員への周知を行い、権利擁護と虐待防止の意識の向上を図っている。

耳納学園では、常日頃から職員に対して利用者への虐待防止、また人権を尊重するように努めた。10月には、虐待防止の自己チェックのアンケートを実施し虐待等に対し職員の再認識を図った。

## 安全管理委員会

### 《概況》

当委員会は、利用者様と職員が安全、かつ安心な生活、又高度な医療を受けられるよう環境を整え、利用者様本位のサービスの質の向上を重点課題とし、医療・介護・療育場面における事故防止を図る事を目的とし、各施設においてそれぞれの活動を行った。職員より提出されたインシデント報告書、及びアクシデント報告書の評価を行い、事故防止対策の具体的内容について検討し、再発防止、未然防止につとめた。法人全体においては、11月に研修会（食事介助の基礎知識）、2月に職員への報告会を実施し、安全管理に対する意識向上を図った。

### 《具体的取り組みと事故発生状況》

#### [ゆうかり]

\*本年度の年間目標を『PDCAサイクルを活用し、アクシデントの再発防止に努める』を掲げ、取り組みをしたが報告ができる十分な状況までには至らなかった。毎月開催の委員会にて、各寮、及び各部署から提出されたアクシデントの発生状況についての分析と問題点を検討、又各寮、各部署での取り組み状況についての報告を行い、職員の安全に対する意識を高めた。アクシデント件数は、前年度233件より22件減少の211件となった。

#### (事故報告件数)

転倒、転落・・・19件	外傷・・・34件	与薬関係・・・39件
注入カテーテル関係・・・74件	その他・・・45件	
		合計・・・211件

#### [千歳]

\*今期のアクシデント報告としては14件と多く発生した。中でも職員による人為的なミスも多く発生している。今回の事故が起きた状況と原因を職員一人ひとりが周知徹底し、再発防止に努める。また、利用者様の加齢に伴う身体機能の低下や健康状態の悪化を日頃から把握し、安全・安心について更なる意識向上と改善に心掛けていく必要がある。

#### (事故報告件数)

転倒・・・4件	外傷事故・・・2件	カテーテル抜去・・・2件
誤薬・・・1件	熱傷・・・1件	異食・・・1件
補食製品の賞味期限切れを出した・・・2件		咬傷・・・1件
		合計・・・14件

[第二千歳]

\*安全管理の取り組みとしては、より安全な介護を目指すべく介護マニュアルを作成し、キャリアの浅い職員(新人)への教育に継続活用した。事故を起こさないという意識が大切であるが、アクシデントについては、施設全体で検討、分析し、同じ事故を繰り返さない支援を行いたい。今後も、利用者様の安全を心掛け細心の注意をはらい、より快適な園生活を支援できる様、職員一人ひとりが事故防止に努めていきたい。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・3件	カテーテル破損・・・2件	その他・・・4件
		合計・・・9件

[耳納]

\*利用者様の高齢化に伴う体力の衰えを考慮しながら、利用者様及び職員に対して事故防止への意識向上を図った。アクシデント報告は昨年同様2件で、内容は2件とも転倒であった。

(事故報告件数)

転倒・・・2件	合計・・・2件
---------	---------

## 医療機器安全管理委員会

### 《概況》

医療機器安全管理委員会は、2ヶ月に1回その月の最後の月曜日に委員会を予定し、感染症が流行している時は、話し合いを中止にしている。

構成メンバーは、臨床検査技師・診療放射線技師・薬剤師・歯科衛生士・各寮看護師の7名。

### 《開催日の状況》

2020年6月24日、8月26日、10月28日、12月23日

2021年2月17日

### 《内容》

#### 1. 医療機器修理・点検・購入について

- ・人工呼吸器の点検は、日勤帯と夜勤帯で日常点検を毎日行っている。
- ・修理対応年数が過ぎている機器が多くなっているために、新しい機器の購入が必要になってきている。修理可能な機器は、業者に修理依頼している。

### 《内部研修会》

2020年9月19日	超音波ネブライザーについて	参加者	10名
2020年12月17日	テルモ 経腸栄養ポンプについて	参加者	10名
2021年2月4日	経腸栄養ポンプについて	参加者	18名

## 医療ガス安全管理委員会

### 《概況》

医療ガス安全管理委員会は、医療機器安全管理委員会と並行して行っている。

### 《内容》

- ・医療ガスの点検については、日常点検を行い、年1回の業者点検を山下医科器械株式会社と契約をして、医療ガス設備保守点検を2020年1月15、16日で行ってもらった。特に異常はなかった。

## 防災対策委員会

### 《概況》

社会福祉施設においては、各種の災害時の際に特に配慮を要する利用者様が入所されており、その防災対策を確立することが強く要請されている中、当委員会ではより良い防災対策を確立することを目的に活動を行った。その中でも火災時の対策に重点をおき、各施設（耳納・千歳・ゆうかり）定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員及び利用者様の防災に対する意識向上を図った。又、地震災害・風水害等の自然災害にも対応できるようにマニュアルを作成した。夜間時に発生すると思われる風水害に対しては、事前に対応できる人員を確保した。発生した際には各施設で待機を行い、風水害の被害を最小限に留め、利用者様の安全確保が出来るようにした。久留米市消防計画に定められた避難確保計画の作成を行い、久留米市防災対策課へ提出している。又、災害時事業継続計画（BCP）についても現在作成中である。

毎年開催されている浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会にも出場しており、消火栓の部にゆうかり学園から2チーム出場した。

### 《火災想定避難訓練実施状況》

（耳納学園）

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

（千歳療護園）

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

（ゆうかり学園）

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練  
毎月1回各寮別に実施

## 院内感染対策委員会

### 《概況》

利用者様が安全・安心に過ごして頂くために、感染防止の基本的知識を理解し、科学的根拠にもとづく日常の感染防止対策、アウトブレイク時に迅速な対応ができるよう、年2回全体研修会、月1回の委員会ではテーマに沿って情報提供、感染症マニュアルの見直しを行った。

月	内 容
4	2019 年度年間計画・委員会指針について
5	風疹について 手洗いパトロール
6	腸管出血性大腸菌感染症（0-157）について
7	ノロウイルス感染症について
8	針刺し・噛みつき事故による感染症について
9	アデノウイルス感染症について
10	インフルエンザ感染症・予防について
11	アデノウイルス感染症について
12	ノロウイルス感染症について
1	結核について
2	感染症について
3	2019 年度感染症報告 手洗いパトロール

開催日 毎月第 1 金曜日  
開催時間 9：30～10：00  
委員 所長他 13 名

#### 11 月の全体研修会（業者による講義）

「ゆうかり学園における感染予防対策」

- ・重症児の特徴
- ・感染症とは何？
- ・手洗いについて
- ・手袋の使用方法

#### 2 月の全体報告会

- ・年間感染症の状況

アデノウイルス感染症 なかよし寮 10 月 7 名、11 月 1 名

インフルエンザ A 型 0 名

ノロウイルス感染症 なかよし寮 3 名

## 衛生委員会

### 《概況》

職場の衛生管理体制を整備確立するとともに、職員の健康保進を図り、明るく快適な職場環境を形成するために、月1回院内感染対策委員会と一緒に開催。年1回全体研修会を実施。

月	内 容
4	2019年度計画について
5	ストレスチェックについて
6	喫煙対策
7	熱中症対策
8	腰痛対策
9	高血圧について
10	更年期対策
11	寒さ対策
12	花粉症について
1	治療と職業生活の両立支援
2	100歳まで元気に生きるには
3	快適な職場環境について

- ・6月全職員対象にストレスチェック実施する。313名中288名受診(受診率92.0%)昨年同様、チェック用紙への記入ミスが見られた。結果として53名全体の18.4%にストレスやや高い・高いがあり、今後メンタルについて支援が必要と思われる。
- ・8月、メンタルヘルス研修会開催、ストレスチェックの結果、集団分析結果に基づく職場ストレス対策についてと、栄養素と心と体について、看護部係長より講義する。

## 広報委員会

### 《概況》

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は6月1日(59号)、10月1日(60号)、2月1日(61号)の年間3回発行し、委員8名で構成した編集会議は、施設内LANを活用して年間3~4回にとどめ、締め切り内に発行できるように、努力している。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数は多くない。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

[発行内容]

- 第 59 号 (2019 年 6 月 1 日発行) 表紙…千歳療護園
  - ・ 『令和』新時代を迎えて…日野事務局長
  - ・ ゆうかり医療療育センター所長就任の御挨拶…小児科医師 大滝悦生
  - ・ こえだ物語 54 《☆食事形態変更☆》～刻み食からマッシュ食へ～
  - ・ 今日の仲間 42 (小学部、中学部、高等部計 6 名の入学者紹介)
  - ・ 施設だより (各施設・寮の行事紹介)
  - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人紹介他
- 第 60 号 (2019 年 10 月 1 日発行) 表紙…コアラ園
  - ・ 組織の活性化を図るには…日野理事長
  - ・ こえだ物語 55 《☆ゆうかりをキレイにする清掃員の方々☆》～清潔な環境作りを目指して～
  - ・ 今日の仲間 43 (耳納学園、千歳療護園、なかよし寮、支援センターちとせの仲間)
  - ・ 施設だより (各施設・寮の行事紹介)
  - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
  - ・ 30 年度事業報告、決算状況報告および 2019 年度事業計画の報告記事
- 第 61 号 (2020 年 2 月 1 日発行) 表紙…寄贈していただいた絵画「庭の鳩 作：本村浩章」
  - ・ 新年のご挨拶…日野理事長
  - ・ 即位礼正殿の儀 参列報告…日野理事長
  - ・ こえだ物語 56 《利用者様☆ドライブ外出☆》～利用者様の気分転換を図って！～
  - ・ 今日の仲間 44 (ともだち寮、おひさま寮、第二千歳療護園、コアラ園の仲間)
  - ・ 施設だより (各施設・寮の行事紹介)
  - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他

[配布先および発行部数]

- ◎学園関係 (利用者様及び園内各部署、賛助会員様等に配布…500 部。61 号より全職員にも配布となり 300 部増刷)
- ◎行政や地域、関連諸施設、学校などに配布 (700 部)



◎1回の発行部数は1,300部。61号より全職員にも配布となり300部増刷したため1,600部となる。年間発行部数は4,200部であった。

### 療育会議運営委員会

2019年度 表の通り実施しました。

今年度の人権問題（外部講師）は、NPO法人福岡ジェンダー研究所理事兼研究員・西南女学院大学院教授・民間団体『こどもCAPふくおか』代表の倉富史枝先生へ依頼し、9月に『ハラスメントのない職場作り』と題し、1、ハラスメントについて理解を深める 2、ハラスメントを組織の問題として認識する 3、ハラスメントの適切な対処の方法について、ハラスメントの動向、医療機関で起きるハラスメント、ハラスメントの予防と対策などのお話がありました。また、今年度の虐待防止研修会では、虐待防止チェックリストの集計をもとに職員間でのグループディスカッションを行い『悩みや困っていること、および改善策』について話し合い、充実した研修会を行いました。

今年度は感染症の影響はあったものの、ほぼ予定通り実施できました。

### (2019年度) 療育会議実施 2019年4月～2020年3月

日付	会議名	司会	記録	準備・片付け	日付	会議名	司会	記録	準備・片付け
4/10	講義(理事長)	原 貴子	大山美佐	訓練	10/16	運動会最終打ち合わせ			おひさま看護
4/25	各施設・寮				10/23	各施設・寮			
5/8	予備日			ともだち看護	11/13	各施設・寮			なかよし育成
5/23	各施設・寮				11/27	医療安全・感染症研修会	藤川康文	坂本尚美	
6/12・19	QC発表会	大山美佐 廣瀬晴菜	廣瀬晴菜 福山和也	なかよし看護	12/11	虐待防止研修会	坂本尚美	山下健登	千歳
6/26	各施設・寮				12/25	各施設・寮			
7/17	盆踊り最終打ち合わせ			おひさま育成	1/8	講義(局長)	山下健登	佐藤明美	第二千歳
7/25	各施設・寮				1/22	各施設・寮			
8/21	衛生管理研修会 メンタルヘルス研修会	福山和也	中村正和	耳納・給食・心理	2/12	各施設・寮			訓練
8/28	各施設・寮				2/26	報告会 (苦情解決・安全管理・ 感染症委員会)	佐藤明美	畑中 慶	
9/4	外部講師(人権研修)	中村正和	占部千里	ともだち育成	3/11	薬局研修会	藤川康文	松本優子	ともだち看護
9/26	各施設・寮				3/25	各施設・寮			

※第2週目にできなかった場合第4週目に変更することがある。  
 ※第4週目に講義および研修会が実施されることもある。(その場合の司会・記録は運営委員で実施)

## 福祉QC委員会

今年度理事長の支持により、QC活動のアンケート調査を実施した、活動の充実をはかる為、これまでも、委員会の中で話し合いを持ってきたが、アンケートの実施により、より幅広い情報を集めることが出来、活動内容の方向性も見えてきた。又、何よりアンケート結果をスタッフ全員に開示することで、意識の向上に繋がったのではないかと感じられる。

今後も定期的にアンケート調査を、実施して行く予定とする。

### 第30回「福祉QC」全国発表大会出場

期日 2019年11月18日・19日（東京にて開催）

サークル名 みんなで1UP

テーマ 仕事の効率を上げよう

（発表は発表部署現場サイドの都合により、急きょ不参加となる）

### 2019年度 活動サークル

施設・部署名	サークル名	テーマ
千歳療護園	トライ トライ トライ	日中活動を充実させよう
第二千歳療護園	やまどり	2019 居室棚の中の戦争
おひさま訓練部	さわやかSUN組	車椅子座位の姿勢を整えよう
給食部	スマイルキッチン	野菜処理の効率を良くする
なかよし看護課	E—NA E—HA	身体の健康は、お口から
おひさま看護課	もれない隊	おむつの見直し
ともだち看護課	R 1	短期をスムーズに受ける

## ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

### 《概況》

当施設においては、身体的、精神的にも配慮を要する利用者様が多く入所されており、その防犯対策の確立が強く要請されている中、当委員会ではより良い防犯対策を確立することを目的に活動を行った。

### 《具体的取り組み状況、及び内容》

#### ※委員会開催日

(4月25日、5月30日、6月27日、7月31日、8月30日、9月27日  
10月31日、11月28日、12月26日、1月30日、2月27日、3月26日)

毎月1回、定期的に防犯対策委員会を開催し、各寮の設備面(自動ドア、窓周辺、インターホン、さすまたなど)のチェック報告、ゆうかり敷地内の確認、門扉、全周囲フェンスの確認、又は、防犯監視システム、防犯カメラ、センサーライト、外灯等の外部設備等の動作確認の報告を行い、日常的に防犯に対する意識向上を図った。

令和元年度は、各寮単位での防犯訓練を7月にともだち寮、8月はおひさま寮、9月にはなかよし寮、それぞれ寮内へ不審者が侵入した想定により、日勤帯の設定において実施した。今後の防犯訓練では、ゆうかり玄関からの侵入を想定した訓練、夜間帯を想定した訓練なども検討して次年度の課題とした。

又、新任職員研修の中では、防犯対策委員会設立の経緯、防犯ビデオ研修、さすまた実技指導を行った。